

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第3回）

<盛岡ブロック②>

日時：令和元年8月19日（月）

10:00～12:00

会場：盛岡市総合福祉センター

4階 講堂

【次 第】

- 1 開会
- 2 県教育委員会挨拶
- 3 盛岡ブロックの状況について
- 4 後期計画策定に向けた意見交換
 - ◆ テーマ
各地域における学校・学科の配置について
- 5 その他
- 6 閉会

■ 後期計画策定に向けた意見交換（盛岡ブロック）

[後期計画における高校教育の目指す方向性（案）]

- ・ AI や IoT 等の急速な技術革新の進展による教育環境の変化や学習指導要領の改訂等、高校教育を取り巻く現状を踏まえ、望ましい学校規模の確保による「教育の質の保証」と本県の地理的状況等を踏まえた「教育の機会の保障」を大きな柱とした高校再編を進めながら、新時代に対応した「社会を創造する人づくり」の実現を目指す。

[テーマ]

各地域における学校、学科の配置について

(1) 盛岡ブロックの現状

- ・ 全日制課程については、県立高校は普通高校 11 校（専門学科併置校 3 校を含む）、専門高校 3 校（農業、工業、商業）、総合学科高校 1 校の 15 校設置しています。また、盛岡市立高校と私立高校が 8 校あります。
- ・ 多部制・単位制の定時制課程を杜陵高校に設置し、通信制課程も併設しています。また、夜間定時制課程を盛岡工業高校に併設しています。

(2) 盛岡ブロックの課題等

- これまでの地域検討会議において、学科等に関する意見としては、「多様な学科を設置した、中学生にとって魅力的な学校を設置してはどうか」や「現在の社会情勢を鑑み、可能な限り工業科を維持することが必要」等がありました。
- 平成 30 年度に実施した中学生アンケートにおいて、普通科系希望者の割合が 72.9%（県平均 63.7%）と高く、設置学科の状況を上回っています。また、学校の規模で「1 学年 4 学級以上（7 学級以上を含む）」を希望する割合が 57.6%（県平均 49.5%）と高くなっています。
- 平成 31 年度入試における、盛岡ブロックの定員充足率は 93.2%（県平均 85.1%）となっており、他のブロックと比べて高い状況にありますが、15 校中 9 校で欠員が生じています。
- ブロック間の交流について、過去 3 年間（H29～31 年度）の平均を見ると、他のブロック等から転入した生徒が 527.7 人、他のブロック等へ転出した生徒が 160.7 人となっており、他のブロック等からの転入が 367.0 人上回っています。
- 平成 31 年 3 月の中学校卒業生数は 4,263 人で、後期計画最終年の令和 7 年 3 月の中学校卒業予定者数は 4,000 人（6.2%減）、令和 15 年 3 月には、3,307 人（22.4%減）となる見込みです。今後、中学校卒業生数の減少により、各校の入学者が減少するものと見込まれ、学校規模が縮小していくものと予想されます。

(3) 議論の方向性

- 現状を踏まえ、今後、盛岡ブロックにおける必要な学校・学科について、御意見を伺います。
- 中学校卒業生数については、後期計画終了後もさらに減少していくことが見込まれる中、可能な限り現在の学校を維持する観点から、学級数の調整で対応する考え方と、学校の活力向上の観点から、学校統合で対応する考え方があります。これらの考え方について、盛岡ブロックの現状を踏まえた具体的な御意見を伺います。

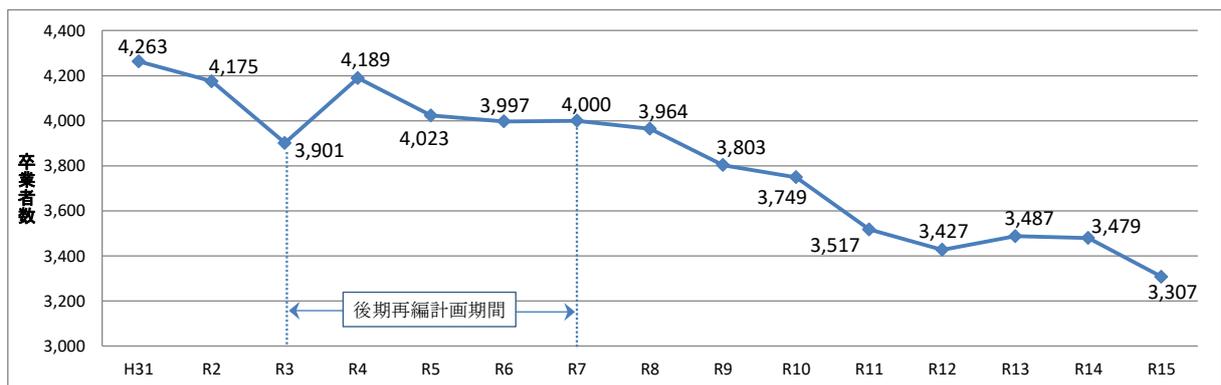
[盛岡ブロックの状況について]

1 中学校卒業者の推移（県内ブロックごと）

	中段:対前年比 下段:対H31年比														
	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3	R8.3	R9.3	R10.3	R11.3	R12.3	R13.3	R14.3	R15.3
盛岡	4,263	4,175	3,901	4,189	4,023	3,997	4,000	3,964	3,803	3,749	3,517	3,427	3,487	3,479	3,307
		-88	-274	288	-166	-26	3	-36	-161	-54	-232	-90	60	-8	-172
		-88	-362	-74	-240	-266	-263	-299	-460	-514	-746	-836	-776	-784	-956
岩手 中部	1,879	1,754	1,690	1,669	1,667	1,736	1,601	1,586	1,504	1,483	1,462	1,414	1,366	1,353	1,297
		-125	-64	-21	-2	69	-135	-15	-82	-21	-21	-48	-48	-13	-56
		-125	-189	-210	-212	-143	-278	-293	-375	-396	-417	-465	-513	-526	-582
胆江	1,166	1,174	1,045	1,117	1,117	1,091	1,018	1,067	1,043	971	944	914	914	897	861
		8	-129	72	0	-26	-73	49	-24	-72	-27	-30	0	-17	-36
		8	-121	-49	-49	-75	-148	-99	-123	-195	-222	-252	-252	-269	-305
両磐	1,164	1,084	1,075	1,057	999	997	958	929	872	847	829	787	753	733	694
		-80	-9	-18	-58	-2	-39	-29	-57	-25	-18	-42	-34	-20	-39
		-80	-89	-107	-165	-167	-206	-235	-292	-317	-335	-377	-411	-431	-470
気仙	499	467	438	415	396	406	421	380	354	372	343	355	353	351	330
		-32	-29	-23	-19	10	15	-41	-26	18	-29	12	-2	-2	-21
		-32	-61	-84	-103	-93	-78	-119	-145	-127	-156	-144	-146	-148	-169
釜石 ・遠野	572	527	519	532	522	483	508	454	466	504	465	448	433	412	409
		-45	-8	13	-10	-39	25	-54	12	38	-39	-17	-15	-21	-3
		-45	-53	-40	-50	-89	-64	-118	-106	-68	-107	-124	-139	-160	-163
宮古	652	574	580	553	621	574	511	498	549	538	495	478	507	504	475
		-78	6	-27	68	-47	-63	-13	51	-11	-43	-17	29	-3	-29
		-78	-72	-99	-31	-78	-141	-154	-103	-114	-157	-174	-145	-148	-177
久慈	509	504	449	456	474	427	461	427	422	410	408	382	353	346	326
		-5	-55	7	18	-47	34	-34	-5	-12	-2	-26	-29	-7	-20
		-5	-60	-53	-35	-82	-48	-82	-87	-99	-101	-127	-156	-163	-183
二戸	430	419	398	416	386	351	371	355	349	359	329	289	280	279	273
		-11	-21	18	-30	-35	20	-16	-6	10	-30	-40	-9	-1	-6
		-11	-32	-14	-44	-79	-59	-75	-81	-71	-101	-141	-150	-151	-157
全県	11,134	10,678	10,095	10,404	10,205	10,062	9,849	9,660	9,362	9,233	8,792	8,494	8,446	8,354	7,972
		-456	-583	309	-199	-143	-213	-189	-298	-129	-441	-298	-48	-92	-382
		-456	-1,039	-730	-929	-1,072	-1,285	-1,474	-1,772	-1,901	-2,342	-2,640	-2,688	-2,780	-3,162
	卒業者	現中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1					

2 中学校卒業者の推移（盛岡ブロック内の市町村ごと）

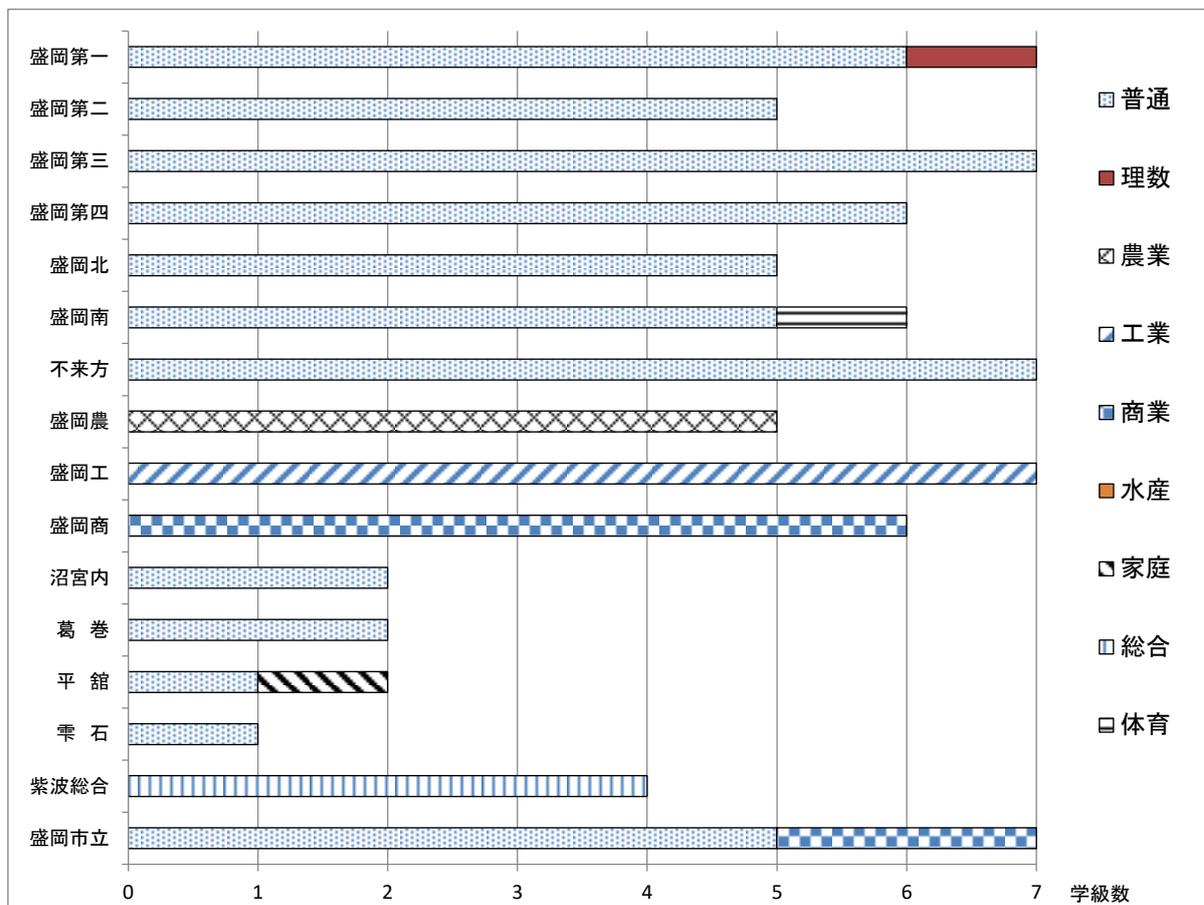
	中段:対前年比 下段:対H31年比														
	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3	R8.3	R9.3	R10.3	R11.3	R12.3	R13.3	R14.3	R15.3
盛岡	4,263	4,175	3,901	4,189	4,023	3,997	4,000	3,964	3,803	3,749	3,517	3,427	3,487	3,479	3,307
ブロック計		-88	-274	288	-166	-26	3	-36	-161	-54	-232	-90	60	-8	-172
		-88	-362	-74	-240	-266	-263	-299	-460	-514	-746	-836	-776	-784	-956
盛岡市	2,653	2,628	2,431	2,684	2,507	2,566	2,531	2,492	2,399	2,352	2,175	2,170	2,243	2,229	2,129
		-25	-197	253	-177	59	-35	-39	-93	-47	-177	-5	73	-14	-100
		-25	-222	31	-146	-87	-122	-161	-254	-301	-478	-483	-410	-424	-524
雫石町	129	133	121	126	122	122	134	122	107	107	113	95	94	102	97
		4	-12	5	-4	0	12	-12	-15	0	6	-18	-1	8	-5
		4	-8	-3	-7	-7	5	-7	-22	-22	-16	-34	-35	-27	-32
滝沢市	561	543	488	553	552	524	566	554	516	523	500	468	462	470	430
		-18	-55	65	-1	-28	42	-12	-38	7	-23	-32	-6	8	-40
		-18	-73	-8	-9	-37	5	-7	-45	-38	-61	-93	-99	-91	-131
紫波町	320	297	291	282	287	281	272	287	286	268	262	231	212	225	219
		-23	-6	-9	5	-6	-9	15	-1	-18	-6	-31	-19	13	-6
		-23	-29	-38	-33	-39	-48	-33	-34	-52	-58	-89	-108	-95	-101
矢巾町	259	255	239	247	256	243	241	229	240	238	220	236	244	225	215
		-4	-16	8	9	-13	-2	-12	11	-2	-18	16	8	-19	-10
		-4	-20	-12	-3	-16	-18	-30	-19	-21	-39	-23	-15	-34	-44
八幡平市	198	173	188	172	174	153	152	159	158	155	136	127	145	141	130
		-25	15	-16	2	-21	-1	7	-1	-3	-19	-9	18	-4	-11
		-25	-10	-26	-24	-45	-46	-39	-40	-43	-62	-71	-53	-57	-68
葛巻町	34	30	41	28	31	32	25	37	29	28	32	26	22	21	20
		-4	11	-13	3	1	-7	12	-8	-1	4	-6	-4	-1	-1
		-4	7	-6	-3	-2	-9	3	-5	-2	-2	-8	-12	-13	-14
岩手町	109	116	102	97	94	76	79	84	68	78	79	74	65	66	67
		7	-14	-5	-3	-18	3	5	-16	10	1	-5	-9	1	1
		7	-7	-12	-15	-33	-30	-25	-41	-31	-30	-35	-44	-43	-42
	卒業者	現中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1					



3 公立高校の設置学科及び学級数の状況（令和2年度）

学校名	学科	定員	学級数	設置学科（定員）
盛岡第一	普・理	280	7	普通科(240)、理数科(40)
盛岡第二	普	200	5	普通科(200)
盛岡第三	普	280	7	普通科(280)
盛岡第四	普	240	6	普通科(240)
盛岡北	普	200	5	普通科(200)
盛岡南	普・体	240	6	普通科(普通コース160、体育コース40)、体育科(40)
不来方	普	280	7	普通科(人文理数学系160、芸術学系40、外国語学系40、体育学系40)
盛岡農	農	200	5	動物科学科(40)、植物科学科(40)、食品科学科(40)、人間科学科(40)、環境科学科(40)
盛岡工	工	280	7	機械科(40)、電気科(40)、電子情報(40)、電子機械科(40)、工業化学科(40)、土木科(40)、建築・デザイン科(40)
盛岡商	商	240	6	流通ビジネス科(80)、会計ビジネス科(80)、情報ビジネス科(80)
沼宮内	普	80	2	普通科(80)
葛巻	普	80	2	普通科(80)
平舘	普・家	80	2	普通科(40)、【家庭】家政科学科(40)
雫石	普	40	1	普通科(40)
紫波総合	総	160	4	総合学科(160) ※人文・自然、福祉・健康、情報・経済、ライフデザイン、エコジーン・フードの5系列あり。
盛岡市立	普・商	275	7	普通科(特別進学コース35、普通コース160)、【商業】商業科(80)

3,155 79



学科	普通	理数	農業	工業	商業	水産	家庭	総合	体育	計
学級数	52	1	5	7	8	0	1	4	1	79
定員	2,075	40	200	280	320	0	40	160	40	3,155

県立高校の教育課程の形態

◆ 普通高校

普通教育を主とする普通科高校。(学級単位で専門科目を学べるコースを設けている学校もある。)《盛岡第一高校、盛岡第二高校 等》

◆ 総合選択制高校

普通科にいくつかの「学系」を設け、生徒が自分の興味・関心、進路希望に応じて各学系に入学し学習するとともに、必要に応じて他の学系の教科・科目も選択できるなど幅広く学習できる普通高校。

《不来方高校、花巻南高校》

◆ 総合学科高校

進路に応じる複数の「系列」があり、2年次から「系列」や普通教科と専門教科のどちらも選択でき、総合的に学ぶことができる単位制高校。

《紫波総合高校、北上翔南高校、岩谷堂高校、一関第二高校、久慈東高校、一戸高校》

◆ 専門高校

農業、工業、商業、水産、家庭等の専門教科を主として学ぶ専門学科高校。

《盛岡農業高校、盛岡工業高校 等》

◆ 総合的な専門高校

複数の専門学科を併設し、所属する学科の科目以外に、関連する他の専門分野の教科・科目を併せて履修することができる専門高校。

《花北青雲高校、大船渡東高校、釜石商工高校》

◆ 定時制課程・通信制課程

定時制課程は、夜間又は特別な時間帯等に授業を行なう課程。通信制課程は、通信の方法により高校教育を行う課程。

《古宮高校定時制課程、杜陵高校通信制課程 等》

◆ 多部制・単位制高校

特定の時間帯で授業を行なう課程(部)を複数組み合わせ設置し、生徒がいずれかの時間帯に所属して学ぶことができる単位制の定時制高校。

《杜陵高校、杜陵高校奥州校、久慈高校長内校》

◆ 中高一貫教育校

中学校と高校の課程を調整し、一貫性を持たせた体系的な教育方式を行っている学校。

《併設型：一関第一高校附属中学校》

《連携型：葛巻地区、軽米地区》

<教育課程の形態等(例)>

普通高校	必修		選択
	普通教科・科目		芸術 等

* 普通科、理数科、体育科を含む。 ※コース制は、必修に特定の専門科目が含まれる。

総合選択制高校	学系	必修		選択		
		共通	学系内	学系内	自由	
	人文理数	普通教科・科目	普通教科・科目	専門科目	他の学系の科目、	
	芸術	〃	〃	〃	普通専門	
	外国語	〃	〃	〃	科目	
体育	〃	〃	〃			

総合学科高校	系列例	必修	選択	
		普通教科・科目	系列選択科目	自由選択科目
	人文科学 自然科学 生活・福祉 情報・経済 環境緑化 海洋科学	普通教科・科目 原則履修 産業社会と人間	人文→地理A 等 自然→数学Ⅲ 等 生活→服飾手芸 等 情報→簿記 等 環境→草花 等 海洋→漁船運用 等	倫理 スポーツ ビジュアルデザイン 音楽理論 生活の書 他多数

専門高校	必修		選択
	普通教科・科目	専門科目	専門科目・芸術 等

総合的な専門高校	学科	必修		選択	
	農業	普通教科・科目	農業科目	他分野の専門科目	芸術 等
	工業		工業科目		
	商業		商業科目		

定時制課程	(夜間又は特別な時間帯等に授業)	夜間
		17時～21時

※ 時間帯を長くして、科目を多く設定し、履修させることにより3年で卒業可能な学校がある。

通信制課程	レポート(自宅学習)主体、スクーリング(面接指導)、試験で単位取得
-------	-----------------------------------

多部制・単位制高校	午前部	午後部	夜間部
	9時～13時	13時～17時	17時～21時

※ 特定の時間帯を複数設置、単位制で生徒個々に時間割を決められる。

※ 所属する部以外の部の科目を履修することで、3年で卒業も可能。

併設型中高一貫教育校	(選抜)	中学校	(無選抜)	高等学校
------------	------	-----	-------	------

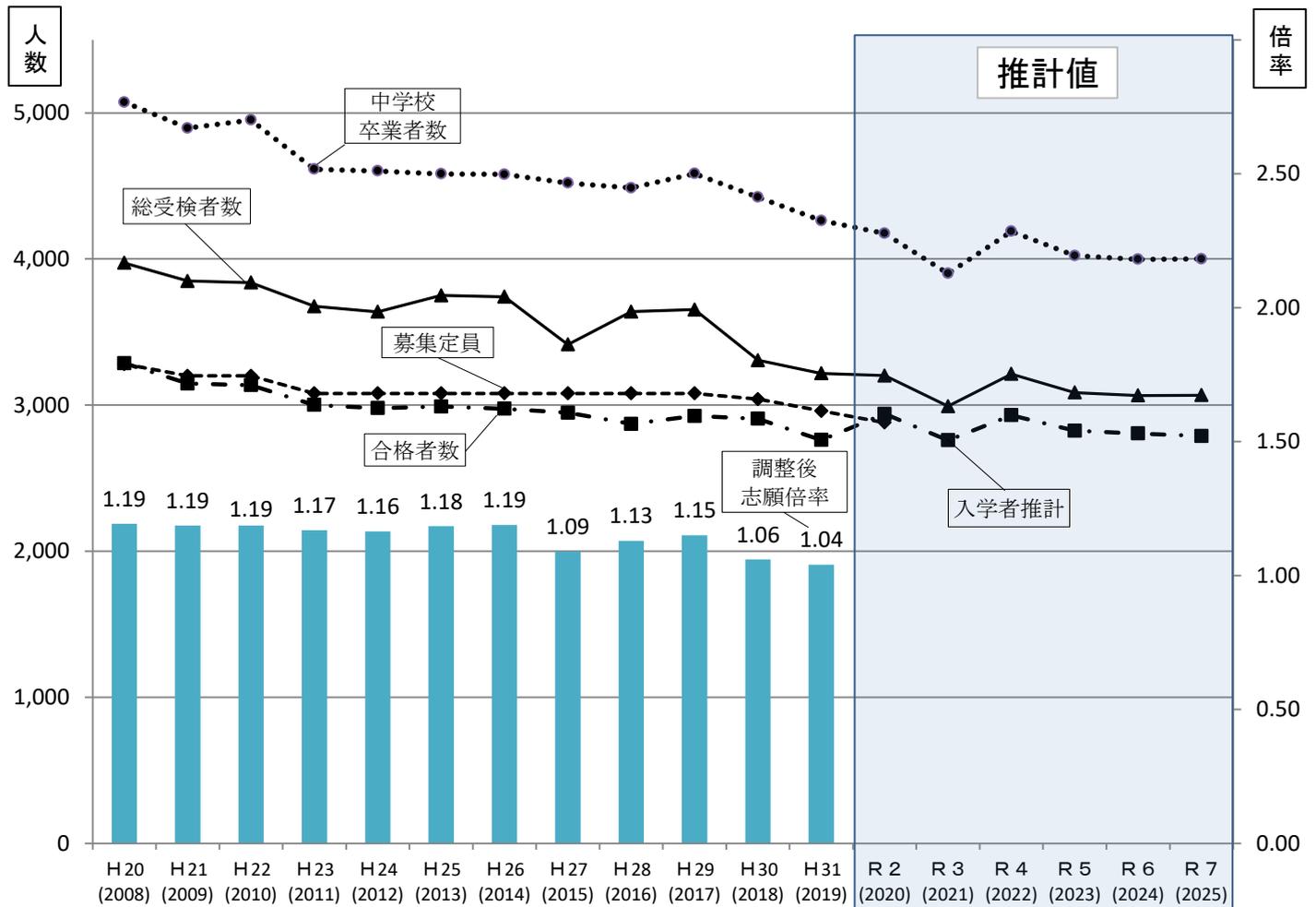
※ 中学校の設置形態の違いにより、同一学校型(中等教育学校)、併設型、連携型の3種類がある。

県立高校(全日制)の入試状況の推移(盛岡ブロック)

年 度	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)
中学校 卒業生数	5,073	4,896	4,951	4,615	4,602	4,582	4,579	4,520	4,486	4,584	4,423	4,263	4,175	3,901	4,189	4,023	3,997	4,000
募集定員	3,280	3,200	3,200	3,080	3,080	3,080	3,080	3,080	3,080	3,080	3,040	2,960	2,880	—	—	—	—	—
合格者数 (入学者推計)	3,286	3,147	3,136	3,001	2,979	2,990	2,975	2,948	2,871	2,925	2,906	2,761	2,940	2,759	2,930	2,825	2,805	2,788
総受検者数	3,973	3,849	3,838	3,676	3,638	3,750	3,741	3,415	3,639	3,654	3,307	3,217	3,202	2,992	3,213	3,086	3,066	3,068
欠 員	+6	▲53	▲64	▲79	▲101	▲90	▲105	▲132	▲209	▲155	▲134	▲199	—	—	—	—	—	—
調整後 志願倍率	1.19	1.19	1.19	1.17	1.16	1.18	1.19	1.09	1.13	1.15	1.06	1.04	—	—	—	—	—	—

※令和2年度以降の入学者推計はH29～31年度の3年間の進学率を基にした推計値

※令和2年度以降の総受検者数はH29～31年度の(総受検者数/中学校卒業生数)の平均値0.767を中学校卒業生数にかけた値



～H21前計画

前期計画H28～R2

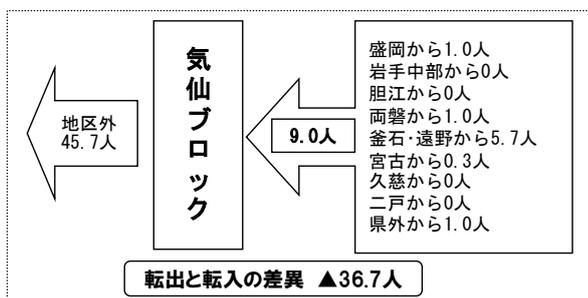
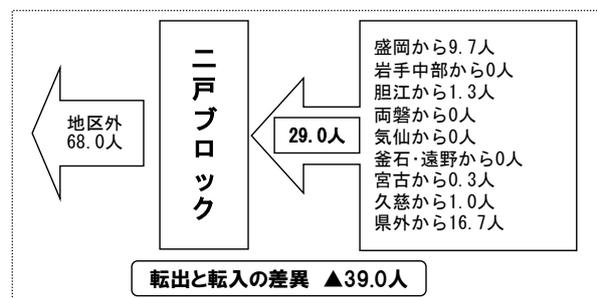
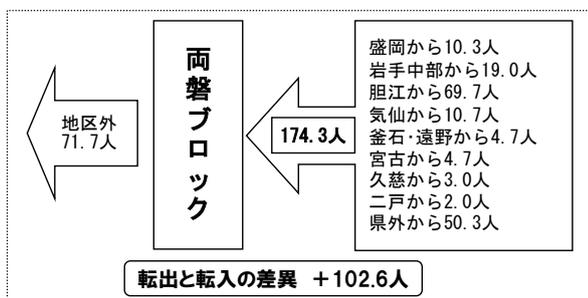
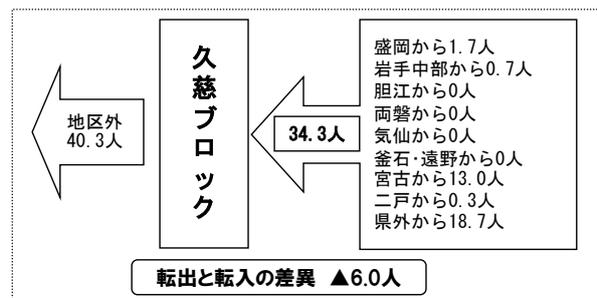
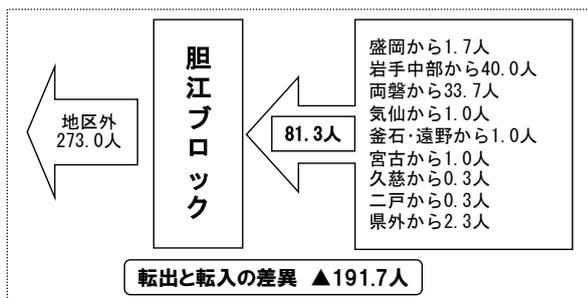
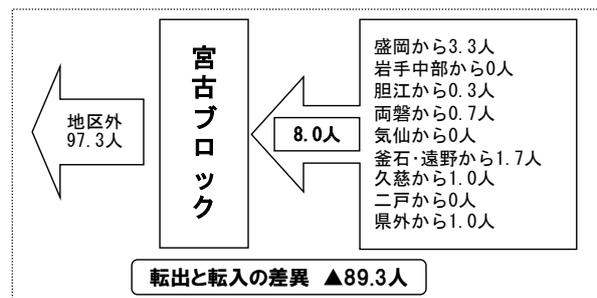
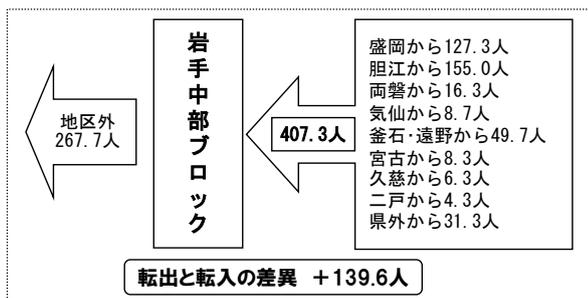
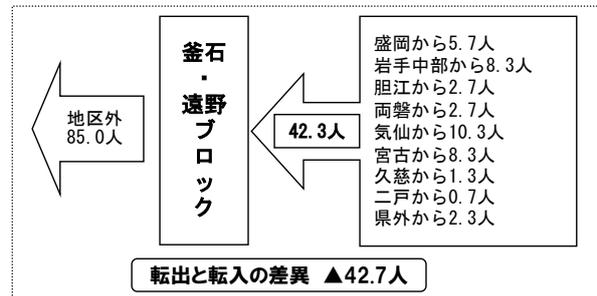
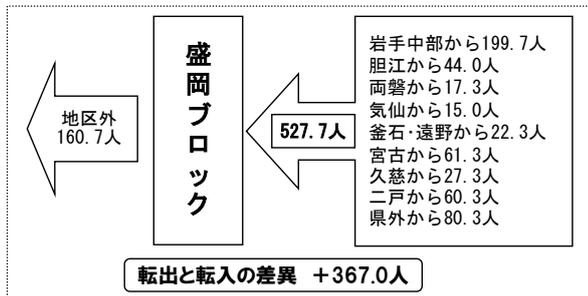
後期計画R3～R7

ブロック間交流の状況（3年間(H29・30・31年度)の平均）

※ 公立高校の全日制・定時制及び私立高校を対象（過年度卒を含む）

※ 転入 ⇒ 他のブロック及び県外からの転入者数

※ 転出 ⇒ 他のブロックへの転出者数（県外転出を除く）



中学生の進路希望等に関するアンケート結果

調査の概要

- (1) 調査対象 県内国公立中学校第3学年及び義務教育学校第9学年の生徒(161校 11,074人)
(参考) H27: 県内公立各中学校第3学年の1学級を抽出 165学級4,546人
- (2) 調査時期 平成30年7月6日～8月3日

質問1 卒業後の進路をどのように考えていますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	10,468	3,937	1,779	1,111	1,112	474	548	615	476	416
① 全日制の公立高校		82.9%	84.4%	81.5%	76.0%	81.2%	86.5%	85.8%	85.5%	83.8%	84.9%
② 全日制の私立高校		9.1%	9.4%	10.3%	12.8%	9.9%	5.5%	6.6%	4.4%	5.5%	6.5%
③ 高等専門学校(高専)		2.7%	1.8%	2.6%	4.5%	3.6%	2.5%	2.4%	4.2%	2.9%	2.9%
④ 定時制の高校		0.6%	0.4%	0.4%	1.0%	0.5%	0.6%	0.9%	1.0%	1.9%	1.0%
⑤ 通信制の高校		0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%	0.4%	0.0%	0.2%	0.7%
⑥ 就職(含 家業)		0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%
⑦ その他(含 専門学校など)		0.3%	0.3%	0.1%	0.5%	0.2%	0.4%	0.0%	0.3%	1.1%	1.0%
⑧ まだわからない		4.1%	3.5%	4.7%	5.0%	4.0%	4.2%	3.8%	4.4%	4.6%	3.1%

質問2 進学先として質問1で答えた学校を希望する(考えた)最も大きな理由は何ですか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,967	3,774	1,683	1,046	1,059	449	526	585	446	399
① 学びたい学科があるから		17.7%	16.5%	20.4%	22.5%	19.2%	15.8%	10.8%	17.8%	15.2%	15.5%
② 部活動が盛んだから		15.1%	16.9%	16.2%	14.1%	12.8%	12.7%	14.8%	10.4%	13.7%	14.3%
③ 進学・就職に有利だと思うから		45.1%	46.5%	46.9%	45.0%	42.3%	42.5%	44.3%	46.7%	45.5%	32.1%
④ 地元の学校だから		9.3%	5.4%	5.8%	5.3%	12.6%	17.6%	20.9%	14.5%	16.6%	22.3%
⑤ 働きながら学べるから		0.5%	0.3%	0.2%	0.7%	0.8%	0.2%	1.0%	0.7%	1.1%	0.3%
⑥ 家族・親・先生がすすめてくれるから		4.0%	4.3%	3.3%	4.9%	4.8%	4.0%	2.9%	3.1%	2.2%	4.5%
⑦ 雰囲気やイメージがよいから		5.1%	6.5%	4.8%	4.6%	3.5%	4.5%	2.5%	3.1%	3.6%	8.0%
⑧ その他		3.2%	3.6%	2.4%	3.0%	4.1%	2.7%	2.9%	3.8%	2.0%	3.0%

質問3 進学先としてどの学科を希望しますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,987	3,780	1,687	1,047	1,063	452	526	585	448	399
① 普通科		56.0%	64.6%	48.2%	44.3%	42.8%	67.9%	61.2%	57.6%	53.1%	54.1%
② 理数科		3.1%	2.7%	2.4%	3.9%	7.0%	0.7%	5.9%	0.9%	0.7%	2.0%
③ 外国語に関する学系		1.1%	0.9%	2.9%	0.7%	0.6%	0.7%	0.6%	0.5%	0.4%	0.5%
④ 体育に関する学科・学系		2.5%	3.4%	4.4%	1.5%	1.1%	1.5%	1.5%	0.2%	1.1%	0.5%
⑤ 芸術に関する学系		1.0%	1.3%	0.6%	1.2%	0.7%	0.9%	0.6%	0.2%	0.9%	1.3%
⑥ 農業に関する学科		2.9%	2.8%	5.3%	1.8%	2.5%	2.2%	2.7%	1.0%	0.9%	3.8%
⑦ 工業に関する学科		10.4%	6.9%	11.9%	17.9%	14.3%	8.8%	11.2%	8.5%	7.4%	14.3%
⑧ 商業に関する学科		6.3%	7.5%	6.1%	6.9%	2.2%	4.4%	5.5%	16.1%	0.4%	0.5%
⑨ 水産に関する学科		0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	1.5%	0.0%	2.2%	1.8%	0.0%
⑩ 家庭に関する学科		2.7%	2.0%	4.0%	3.1%	2.8%	3.8%	1.1%	3.9%	2.5%	2.5%
⑪ 総合学科		6.9%	1.9%	8.1%	11.8%	18.8%	1.3%	2.3%	0.3%	19.2%	12.5%
⑫ どの学科でもよい		1.2%	1.1%	1.1%	1.7%	1.1%	0.7%	1.5%	1.9%	1.3%	0.8%
⑬ その他		1.4%	1.7%	0.7%	1.0%	1.9%	1.1%	1.0%	1.2%	2.0%	0.8%
⑭ わからない		4.2%	3.1%	4.4%	4.1%	4.2%	4.4%	4.9%	5.5%	8.3%	6.5%

質問4 進学したい学校に当てはまるのはどれですか。 ※質問3で「普通科・理数科」と答えた中で、県立高校を希望する生徒のみ回答(盛岡市立を除く)

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	4,912	2,093	723	388	434	272	306	296	207	193
① 学区内にある		79.2%	84.5%	71.6%	68.8%	81.3%	88.2%	81.7%	76.7%	70.0%	63.2%
② 学区外にある		14.0%	9.9%	22.1%	22.2%	13.8%	6.6%	12.4%	14.9%	15.5%	23.3%
③ その他		1.3%	1.0%	0.1%	1.3%	1.6%	0.7%	0.3%	0.3%	8.7%	3.6%
④ まだ決まっていない		5.5%	4.6%	6.1%	7.7%	3.2%	4.4%	5.6%	8.1%	5.8%	9.8%

質問5 高校の学びについて、あなたの考えに近いものはどれですか。 ※質問3で専門学科及び総合学科と答えた生徒のみ回答

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	2,848	778	570	421	412	97	118	184	143	125
① 専門分野を学びたい		58.2%	63.8%	57.0%	53.7%	51.9%	68.0%	53.4%	65.2%	51.7%	59.2%
② 専門分野以外も学びたい		14.8%	16.1%	16.1%	16.6%	10.9%	15.5%	14.4%	10.9%	9.8%	19.2%
③ 入学後に専門分野を決めてから学びたい		13.4%	8.9%	13.3%	15.2%	21.8%	6.2%	13.6%	11.4%	18.2%	11.2%
④ よくわからない		13.6%	11.3%	13.5%	14.5%	15.3%	10.3%	18.6%	12.5%	20.3%	10.4%

質問6 高校での部活動について、あなたの考え方に当てはまるものはどれですか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,941	3,763	1,674	1,040	1,063	451	524	583	446	397
① 入部したい部を決めている		48.6%	47.3%	51.9%	52.9%	48.1%	47.7%	47.7%	43.1%	43.9%	53.1%
② 入学後、多くの部の中から見学等を通して選びたい		42.4%	44.0%	39.1%	37.9%	42.8%	41.9%	44.1%	47.0%	46.9%	38.3%
③ ①、②のどちらでもない		3.1%	3.3%	3.5%	3.1%	2.9%	3.3%	2.1%	2.4%	3.4%	2.3%
④ わからない		5.9%	5.4%	5.6%	6.2%	6.2%	7.1%	6.1%	7.5%	5.8%	6.3%

質問7 通学の範囲をどの程度まで可能と考えていますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,955	3,767	1,679	1,042	1,061	452	524	584	448	398
① 主に徒歩、自転車等で通学可能な範囲まで		29.2%	34.0%	26.6%	24.7%	31.1%	21.5%	24.4%	24.5%	32.8%	19.6%
② 主にバス、列車で通学可能な範囲まで		43.2%	47.6%	48.4%	37.6%	38.5%	35.8%	45.6%	40.9%	28.8%	30.7%
③ 保護者が自家用車で送迎できる範囲まで		16.4%	9.5%	15.0%	26.0%	19.5%	30.5%	16.2%	16.8%	23.7%	29.9%
④ 自宅から通学できない範囲でもよい		5.0%	3.9%	4.7%	4.6%	5.7%	7.5%	6.3%	6.5%	5.8%	8.3%
⑤ その他		0.8%	0.7%	0.8%	1.2%	0.5%	0.7%	0.8%	1.4%	0.2%	1.5%
⑥ わからない		5.4%	4.4%	4.5%	6.0%	4.7%	4.0%	6.7%	9.9%	8.7%	10.1%

質問8 通学(片道)にかけてもよいと思う時間をどの程度までと考えますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,953	3,765	1,678	1,046	1,059	452	524	583	448	398
① 30分以内まで		28.1%	23.1%	27.6%	29.5%	29.8%	34.3%	33.8%	36.2%	37.7%	33.4%
② 1時間以内まで		51.8%	57.8%	51.8%	50.9%	47.4%	49.8%	43.7%	43.7%	42.6%	44.5%
③ 1時間30分以内まで		10.2%	11.8%	10.5%	9.5%	11.0%	6.0%	9.0%	7.0%	8.0%	8.0%
④ 2時間以内まで		2.3%	2.3%	2.3%	1.9%	3.3%	1.5%	2.3%	1.7%	2.9%	1.8%
⑤ その他		1.0%	0.7%	1.3%	1.0%	1.3%	1.8%	1.3%	0.3%	0.7%	2.0%
⑥ わからない		6.5%	4.4%	6.4%	7.3%	7.2%	6.6%	9.9%	11.0%	8.0%	10.3%

質問9 高校で勉強や部活動をする上で、どれくらいの規模(学級数)の高校がよいと思いますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,955	3,767	1,679	1,044	1,061	451	524	584	447	398
① 各学年、1学級(40人)規模の高校		9.1%	7.6%	8.9%	7.7%	8.6%	11.1%	11.6%	15.4%	12.1%	10.3%
② 各学年、2~3学級(80~120人)規模の高校		21.8%	14.6%	22.0%	24.9%	28.6%	25.5%	32.4%	26.7%	24.4%	34.4%
③ 各学年、4~6学級(160~240人)規模の高校		41.4%	40.8%	47.5%	45.6%	42.8%	44.8%	32.1%	31.2%	39.4%	32.9%
④ 各学年、7学級以上(280人以上)の規模の高校		8.1%	16.8%	3.7%	2.6%	1.7%	1.3%	2.5%	4.3%	1.6%	3.5%
⑤ その他		0.4%	0.5%	0.1%	0.5%	0.6%	0.2%	0.4%	0.7%	0.2%	1.3%
⑥ わからない		19.2%	19.7%	17.8%	18.8%	17.8%	17.1%	21.0%	21.7%	22.4%	17.6%

質問10 高校卒業後の進路についてどのように考えていますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,957	3,764	1,682	1,045	1,062	451	524	584	447	398
① 大学・短大へ進学したい		35.9%	42.3%	33.4%	32.0%	31.2%	35.7%	34.4%	29.3%	28.4%	30.7%
② 専門学校(専修学校、各種学校)へ進学したい		15.6%	14.2%	17.5%	15.2%	15.2%	14.9%	17.2%	15.8%	16.6%	21.6%
③ 進学したいと思っているが、大学か短大か専門学校かは未定である		13.7%	13.9%	12.4%	14.7%	15.3%	18.6%	8.0%	13.5%	13.0%	14.1%
④ 岩手県内で就職したい		7.5%	6.8%	9.6%	6.4%	6.0%	6.4%	10.9%	9.1%	7.6%	6.3%
⑤ 岩手県外で就職したい		2.5%	1.7%	1.9%	2.8%	4.7%	2.7%	2.7%	4.6%	2.5%	2.8%
⑥ 就職したいが、岩手県内か県外かは未定である		8.7%	6.3%	10.9%	9.8%	11.5%	5.5%	10.3%	9.6%	9.2%	11.1%
⑦ まだわからない		16.0%	14.8%	14.3%	19.1%	16.1%	16.2%	16.6%	18.2%	22.8%	13.6%

質問11 10年後どこに住んでいると思いますか。

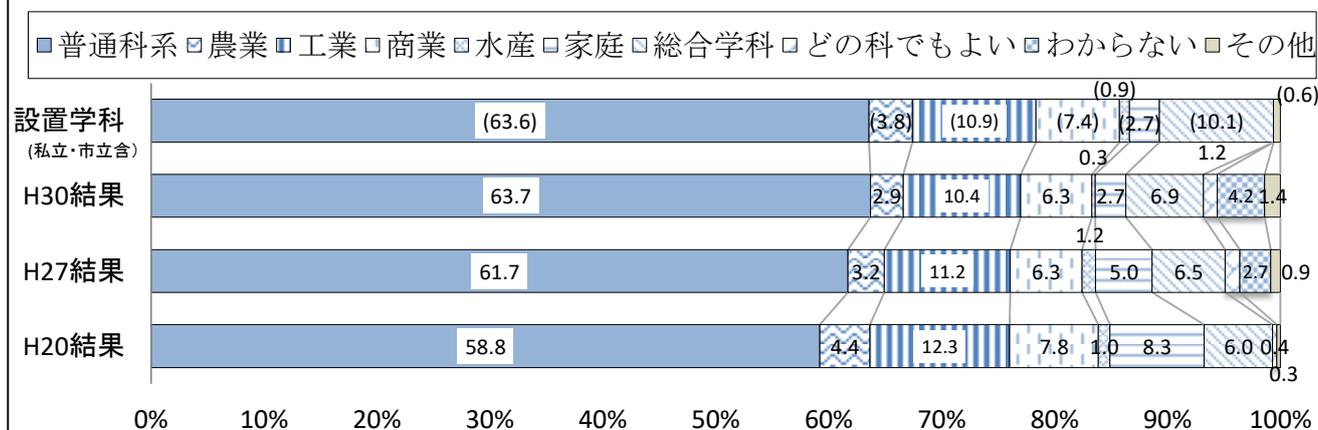
選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	10,468	3,937	1,779	1,111	1,112	474	548	615	476	416
① 今住んでいる市町村に住んでいる		11.3%	12.9%	12.8%	9.1%	8.4%	13.1%	10.2%	10.2%	9.9%	7.7%
② 岩手県内に住んでいる		15.3%	14.2%	16.6%	16.3%	14.0%	11.6%	16.6%	18.2%	12.4%	22.8%
③ 岩手県外に住んでいる		26.5%	26.8%	25.0%	24.9%	30.3%	30.2%	25.7%	25.2%	23.9%	26.9%
④ まだわからない		46.8%	46.2%	45.6%	49.7%	47.3%	45.1%	47.4%	46.3%	53.8%	42.5%

質問3 進学先としてどの学科を希望しますか。

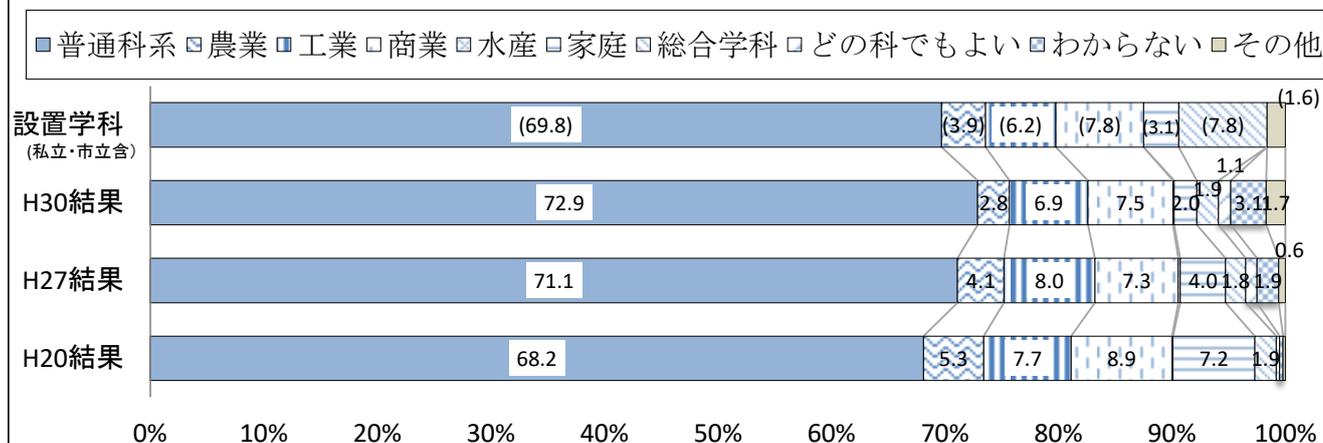
(H27 通学可能な範囲に次の学科がもし全てあるとしたら、進学先としてどの学科を希望しますか。)

選 択 肢	普通科系学科						職業系専門学科						総合学科	どの科でもよい	わからない	その他	
	普通科	理数科	外国語	体育	芸術	計	農業	工業	商業	水産	家庭	計					
全 県	設置学科	56.0%	1.5%	0.8%	1.2%	0.4%	59.8%	5.0%	13.9%	7.3%	1.2%	1.5%	29.0%	11.2%			0.0%
	(私立・市立含)	(60.7%)	(1.2%)	(0.6%)	(0.9%)	(0.3%)	(63.6%)	(3.8%)	(10.9%)	(7.4%)	(0.9%)	(2.7%)	(25.7%)	(10.1%)			(0.6%)
	H30結果	56.0%	3.1%	1.1%	2.5%	1.0%	63.7%	2.9%	10.4%	6.3%	0.3%	2.7%	22.6%	6.9%	1.2%	4.2%	1.4%
	H27結果	48.6%	5.7%	2.1%	2.7%	2.6%	61.7%	3.2%	11.2%	6.3%	1.2%	5.0%	26.9%	6.5%	1.3%	2.7%	0.9%
盛岡 ブロック	設置学科	63.0%	1.2%	1.2%	2.5%	1.2%	69.1%	6.2%	9.9%	7.4%	0.0%	1.2%	24.7%	6.2%			0.0%
	(私立・市立含)	(65.9%)	(0.8%)	(0.8%)	(1.6%)	(0.8%)	(69.8%)	(3.9%)	(6.2%)	(7.8%)	(0.0%)	(3.1%)	(20.9%)	(7.8%)			(1.6%)
	H30結果	64.6%	2.7%	0.9%	3.4%	1.3%	72.9%	2.8%	6.9%	7.5%	0.1%	2.0%	19.3%	1.9%	1.1%	3.1%	1.7%
	H27結果	60.2%	4.8%	1.6%	2.9%	1.6%	71.1%	4.1%	8.0%	7.3%	0.2%	4.0%	23.6%	1.8%	1.0%	1.9%	0.6%
H20結果	設置学科	47.1%	4.6%	1.6%	3.0%	2.5%	58.8%	4.4%	12.3%	7.8%	1.0%	8.3%	33.8%	6.0%	0.4%	0.7%	0.3%
	(私立・市立含)																
	H20結果	55.2%	5.4%	1.3%	3.9%	2.4%	68.2%	5.3%	7.7%	8.9%	0.1%	7.2%	29.2%	1.9%	0.3%	0.3%	0.2%

全 県



盛岡ブロック

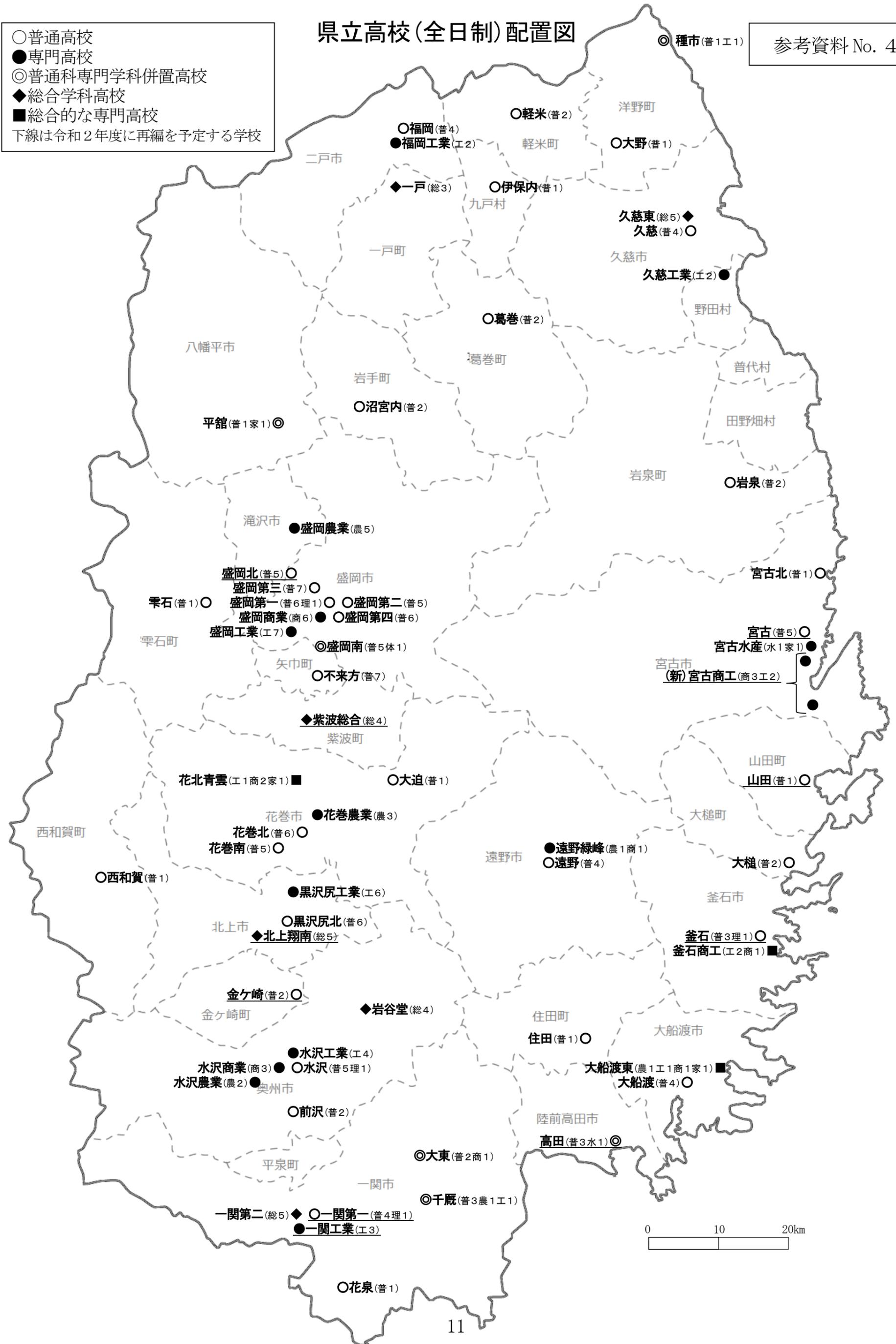


全県では、平成27年のアンケート結果より普通科系志望が若干増加している。設置学科割合（私立、盛岡市立高校を含む）は、中学生の希望する学科の割合とほぼ一致し、全県でみるとバランスの取れた学科配置となっている。
盛岡ブロックでは、普通科系、工業科を希望する割合が、設置学科割合（私立、盛岡市立高校を含む）より高くなっている。

県立高校(全日制)配置図

参考資料 No. 4

- 普通高校
 - 専門高校
 - ◎普通科専門学科併置高校
 - ◆総合学科高校
 - 総合的な専門高校
- 下線は令和2年度に再編を予定する学校



地域検討会議（第2回）の概要

1 実施状況

ブロック名	ブロック内 市町村名	実施日時	会 場	出席者数（事務局を除く）				
				会 議 構成員	県議会 議 員	県 立 高校長	一 般 傍 聴	報 道 関 係
盛岡①	滝沢市、雫石町、 葛巻町、矢巾町	5月28日（火） 10:00～12:00	盛岡市総合福祉センター	15	5	6	3	2
盛岡②	盛岡市、八幡平市、 岩手町、紫波町	5月29日（水） 10:00～12:00	盛岡市総合福祉センター	16	5	12	3	2
岩手中部	花巻市、北上市、 西和賀町	5月20日（月） 15:00～17:00	花巻市交流会館	14	6	9	8	2
胆 江	奥州市、金ヶ崎町	5月27日（月） 10:00～12:00	奥州市水沢地区センター	11	3	8	1	2
両 磐	一関市、平泉町	5月31日（金） 14:00～16:00	一関地区合同庁舎	9	5	6	2	4
気 仙	大船渡市、陸前高 田市、住田町	5月20日（月） 9:30～11:30	大船渡地区合同庁舎	12	0	4	2	2
釜石・遠野	釜石市、遠野市、 大槌町	5月17日（金） 14:00～16:00	あえりあ遠野	13	2	5	6	1
宮 古	宮古市、山田町、 岩泉町、田野畑村	5月24日（金） 14:00～16:00	シートピアなあと	15	1	7	5	1
久 慈	久慈市、洋野町、 野田村、普代村	5月30日（木） 10:00～12:00	久慈地区合同庁舎	17	2	5	5	2
二 戸	二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町	5月14日（火） 10:00～12:00	一戸町コミュニティセンター	18	3	5	1	3
計				140	32	67	36	21
				296				

2 会議内容

(1) 平成31年度の入試状況について

平成31年度の入試状況について、資料に基づき事務局から説明を行った。

(2) 第1回地域検討会議における主な意見等

第1回地域検討会議（平成30年12月～平成31年2月にかけて開催）における主な意見等について、資料に基づき事務局から説明を行った。

(3) 後期計画の策定に向けた意見交換

下記をテーマとして設定し、本県の高等学校教育の現状や、地域ごとの高校のあり方について意見交換を行った。

＜意見交換テーマ＞

- ・小規模校のあり方について
- ・少人数学級について

3 主な意見等

- ・教育の機会の保障の観点から、小規模校は存続させる方向で検討を進めるべきである。
- ・小規模校の教育の質を維持するとともに、魅力化に向けた取組がさらに必要である。
- ・小規模校については、地域と連携した教育モデルの構築が必要である。
- ・その他、ICTを活用した遠隔教育の推進、少人数学級の導入に向けた国に対する教員定数制度の改善要望、小規模校の魅力化に向けた自治体の支援等、様々な意見があった。

地域検討会議（第2回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛岡① (滝沢市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	5月28日(火) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月22日に行われた定例記者会見において、「高校再編については、入学者数等の数字ありきでの議論はしない。」との県教育長の発言を高く評価している。 ・ 少子化の進行により、盛岡市内の学校についても統合しなければ、周辺地区の小規模校の定員が充足しないのではないかと。 ・ 葛巻高校の学級減は延期となっているが、再編計画の対象となっている地域の住民は安心して生活することができない。各市町村に最低1校は2学級以上の高校を存続させるべきである。 ・ 再編計画は数字ありきと感じている。雫石高校は、伝統芸能等、地元で根差した高校なので存続させるべきである。 ・ 特に生徒数の減少が著しい地域の小規模校については、予算措置により少人数学級を導入し、生徒を呼び込む取組が必要である。 ・ 県教委には、市町村と連携しながら県外生徒の受入れについて進めていただきたい。
盛岡② (盛岡市、八幡平市、 岩手町、紫波町)	5月29日(水) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の認識として、地方力の向上のためには、小規模校を大切にすべきとの認識が高まっており、今後の学校教育においては、IoT技術を活用した「教育の質の保証と機会の保障」の両立に向けた取組が重要となる。 ・ 地元中学校の生徒は地元の高校に全員を入学させ、ITを活用した教育を推進する等、全国に先駆けた制度化が大切である。 ・ 1学級校の統合基準は、「20人以下の入学者数が2年連続」であるが、基準が定められていることで、入学者の確保に向けた努力ができる面もある。 ・ 総合学科高校の系列の見直しにより、学校自体の存在価値を見直す時期にきているのではないかと。 ・ 再編計画には、各市町村における地方創生の視点が盛り込まれているが、県教委は知事部局との連携をさらに図るべきである。 ・ 総合学科については現状維持ではなく、将来を見据えた視点での魅力づくりが必要である。 ・ 県がICT技術を導入する方針については支持するものであるが、教育の基本は「face to face」である。
岩手中部 (花巻市、北上市、 西和賀町)	5月20日(月) 15:00~17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校は県教委として存続させることを前提とした上で、高校再編の方向性を明確に示すべきである。 ・ 小規模校の存続については、他県のように、地元からの入学者の割合が高いこと、学校活性化地域協議会の設置、多様な生徒の受入れ体制を整備していること等を考慮した基準も必要である。 ・ まちづくりや文化の継承には、地域の将来を担う人材育成が重要である。北上市内の中学校から、4割の生徒が地区外に進学している状況に驚いており、今後、県教委と情報交換を行い対応策を講じていく。 ・ 地域に貢献する高校こそ、地域に必要な高校であり、小規模校については地域と連携した教育モデルの構築が必要である。 ・ 少人数学級の導入により、特に専門学科においては専門性を高める教育が可能となる。現行制度の中でどのようなことができるのか、財政的な負担等について具体的に示しながら議論する必要がある。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
胆 江 (奥州市、 金ケ崎町)	5月27日(月) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> 岩手においては、教育の質の保証も大切であるが、地理的・経済的制約を受けている生徒でも希望する進路を実現できるよう、教育の機会の保障を重視すべきである。また、志願者数が少ないことを理由として、安易な統合を行うことは避け、地域の学校を残すための方策を自治体とともに考えることが重要である。 第1回地域検討会議において、会議構成員から出された様々な意見や提案に対しての具体的な方策案を県教委は示すべきである。その方策案について、さらに深い議論を展開していくことにより、より良い後期計画を策定できるものと考えている。 本県の現状として、少人数学級の導入を実現しなくても実質的な少人数教育が行われていることは承知した。少人数学級の導入によって教員数に不利益が生じないように、国に対する教員定数制度の改善要望を継続してほしい。
両 磐 (一関市、平泉町)	5月31日(金) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> 農業・工業については特色ある学科を増やすなど、産業人材の育成のあり方についての方向性を示すべきである。 全県的に生徒数の減少が続くことから、高校再編は避けられないことであり、再編計画は計画通りに進めるべきである。 地域の子どもたちが将来的に地元に戻り、地域に貢献する人材として活躍するためには、地域の学校で地域の文化を学ぶ教育体制を確立し、推進することが大切である。 全国的にICTを活用した遠隔授業への取組が推進されており、このような取組は、中山間地等に設置された小規模校で学ぶ生徒の学力を保証するために有効である。 現行制度において本県の高校教育に少人数学級を導入することは難しいことは理解しているが、モデル的に少人数学級を導入し、先進的に制度改革に取り組むことがあってもよいのではないか。
気 仙 (大船渡市、陸前高田市、住田町)	5月20日(月) 9:30～11:30	<ul style="list-style-type: none"> 全国的に少子高齢化が継続することから、学校ではそのような社会の状況を伝える教育が必要である。小規模校は授業の開設科目等に制限があることから、中学生の高校選択にあたり、生徒・保護者に対する情報公開を積極的に行う必要がある。 大学入試制度の改革期でもあり、教育の質の保証はさらに重要となる。都市部と中山間地・沿岸部では教育環境が異なることから、知恵を出しながら岩手県としての取組を進めていく必要がある。 今後のさらなる少子化の中、学校規模の現状維持は難しいことから、小規模校については、生徒1人ひとりへの教育の質をどのように高めていくかが課題となる。 教育現場において教員数の確保は大切であり、現状の制度では少人数学級の導入が難しいことから、県教委の方針のとおり進めるべきである。 住田高校は、1学級を2学級編成とした少人数教育により進路実績を上げているので、教員が働きやすい環境となるよう、工夫をしながら少人数教育を進めていく必要がある。
釜石・遠野 (釜石市、遠野市、大槌町)	5月17日(金) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> 地域にとって「必要な学校」は、様々な観点から地域にとって「貢献している学校」であると言い換えられる。高校生が地域と密接に関わりあうことで、地域の活性化と文化の継承に資している。 高校生は地域創生の新たなパートナーである。高校の統合は貴重な地域の担い手がなくなることに繋がるので避けなければならない。現在の仕組みで立ち行かなければ、岩手の現状に合致した新たな枠組による「岩手の独自モデル」を創造しなければならない。 全県的な少子化に伴う高校再編が進められていくことに、大きな危機感を持っている。町としても、多くの子どもたちに地元の高校を選んでもらえるよう、学校の魅力化等への支援を行っていく所存である。 高校において、より良い学びの環境づくりに向けて少人数学級の導入が必要である。高校標準法等の国の制度により教員定数が不足するのであれば、地域の人材等を活用していく方策についても検討してよいのではないか。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>宮古 (宮古市、山田町、 岩泉町、田野畑村)</p>	<p>5月24日(金) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 山田高校の統合は、町の過疎化に直結することから反対である。地域の学校の存続に向けてどのように取り組んでいくか、今後のさらなる少子化の進行を踏まえ、高校再編は慎重に検討していく必要がある。 学校の魅力化に向けて教育活動の多様化を図るためには、一定規模が必要であるが、きめ細かな教育を受けられる小規模校のメリットも尊重し、近隣校との柔軟な連携等により解決を図るべきである。 いわて県民計画アクションプランにおける沿岸広域振興圏の取組方向として、地域経済を牽引する産業への就業者の定着を重点項目としているが、その役割を担うのが高校である。 田野畑村には高校が設置されていないことから、小中高の教育が継続するような体制を整備するべきである。 国に対する教員定数制度の改善要望を継続しているにもかかわらず、国が制度を改善する動きがないのであれば、要望の仕方を工夫していくべきではないか。
<p>久慈 (久慈市、洋野町、 野田村、普代村)</p>	<p>5月30日(木) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育の機会を保障する観点から、小規模校の統合を行うべきではない。 地域の活性化には小規模校の存在が大切であり、地元の産業等について理解をさせた上で、将来的に地域を担う人材となるよう、キャリア教育を充実させる必要である。 地域の高校を残し、地域社会で活躍する人材の育成が大切である。また、工業等の専門学科を卒業した生徒が大学に進学できる仕組みづくりも必要である。 学校は地域の人材を育成するために必要な存在である。地域との連携による地元就職の視点から、特に1学級校で学ぶ生徒に対し、インターンシップ等を通じて地域企業の魅力を伝えることが大切である。 久慈地区内の学校においても、ITを導入した学習ができるような教育環境の整備が必要である。 中学校では少人数学級が導入されているが、地区内の中学校には個別対応が必要な生徒が多く在籍しており、担任の負担を軽減させるために、各学校には支援員を導入して対応している状況である。
<p>二戸 (二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>5月14日(火) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県北部では、県北振興の施策を掲げて地方創生に取り組んでいることから、高校再編については、地域と一体的な町づくりの観点から検討する必要がある。 2013年から地区内の事業所への就労者が減少している。地域を支える産業が減少している状況を踏まえ、持続可能な社会を構築できる学校教育の環境整備を行うべきである。 1学級校は、教育の質の保証の観点から手詰まり感がある。中山間地は地域人材が不足しており、県教委には、学校教育に協力できる人材の確保に協力してほしい。(財政的な面については協力していきたい。) 県北・沿岸部の教育の質の保証に向けて、教育予算については充実した配分となるようお願いしたい。 少人数学級を導入することで教員数が確保できない現状の制度であれば、県費による加配措置をするべきである。 すでに実質的な少人数学級が多い状況にあるが、学級数を維持する観点から、あえて少人数学級の制度を導入するべきである。

地域検討会議（第1回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛岡① (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	1月7日(月) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校再編においては、高校が地域人材の育成を担っているという視点が重要である。 ・ 県外から生徒を受入れる体制を構築してほしい。 ・ 学級減に伴う加配など、県の支援策があれば地域が納得するのではないかと。 ・ 地域に高校が存在することは町づくりと直結している大事な要素であり、高校の存在は町の存続のキーである。 ・ 県外のみならず、外国からの生徒の受入れの視点も必要である。 ・ 1学級定員40人の基準を見直すべきである。 ・ 現在の再編計画は、様々な意見を集約して策定されたもので評価している。 ・ 紫波総合高校については、総合学科の学習内容を精査し、魅力ある学校づくりを進めていく必要がある。 ・ これから岩手を支える人材として、工業系人材の育成は必要である。
盛岡② (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	1月28日(月) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市部、沿岸部、中山間地それぞれでの高校の役割があり、多様な生徒への対応や地域産業の担い手育成という視点も高校再編においては大切である。 ・ 雫石町は交通の便を考えると都市部に分類されるかもしれないが、町の面積が約609km²と広く、雫石高校が無くなると高校への通学が困難になる地域もある。 ・ 現在のままでは近隣の市町村で生徒の奪い合いになるので、後期計画では県外からの生徒の受入れ制度について強く打ち出し、発展的な再編計画としてほしい。 ・ 県としても各市町村と協力しながら県外生徒の受入れ制度をつくり、地域の高校の存続について考えてほしい。 ・ 併設型の中高一貫教育校である一関第一高校附属中学校へは遠方から入学する生徒もいるため、後期計画では盛岡地域での中高一貫教育校の設置も検討すべきである。 ・ 県内の中学校卒業生数が減っていく中、矢巾町の生徒数は10年後も殆ど変わらない状況が続くため、地元の不來方高校については、存続をお願いしたい。 ・ それぞれの地域には様々な産業があり、企業等での体験学習や地域人材による講話等、地域との交流は学校の魅力づくりにつながると思う。
岩手中部 (花巻市、北上市、 西和賀町)	2月8日(金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期計画の策定に当たっては、進学実績のある高校の盛岡一極集中を見直すことも検討してもよいのではないかと。 ・ 後期計画は地域の学校の役割を重視しつつ、「岩手ならではの」特徴的な計画としてほしい。また、併設型中高一貫教育校の新設についても検討してもよいのではないかと。 ・ 高校は地域の「まちづくり」「ひとづくり」に欠かせない存在である。「高校の魅力づくり」について、市としても積極的に支援していきたいと考えている。 ・ 高校の募集停止・統合は、地域の賑わいを無くしてしまう可能性があり、結果として地域が衰退してしまうということも考えられることから慎重に検討する必要がある。 ・ 地域との連携・協働が進んでいる高校をやむを得ず再編する場合には、地域との連携を継続できる環境づくりについても配慮する必要がある。 ・ 後期計画の策定に当たっては、特別な支援を要する生徒への適切な指導や支援体制の充実の観点も大事にしながら検討する必要がある。 ・ 岩手県は広い県土を有することから、一律の基準によらない柔軟な対応も必要である ・ 後期計画においても、「特例校」の制度は堅持していただきたい。また、各地域の地方創生の取組の状況や社会情勢の変化等も踏まえた検討が必要である。 ・ ものづくり企業の進出による人口の社会増等、後期計画の策定に当たっては、このような社会情勢の変化も考慮した上で検討を進める必要があると考えている。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
胆 江 (奥州市、金ヶ崎町)	12月25日(火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校であっても地域には学校が必要であるという観点から、学級減はやむを得ないとしても、学校の統合は最低限にとどめ、地域の学校をどのように残していくべきかの視点で高校再編を考えるべきである。 ・ 地域から学校を無くすことは、地域として適切な教育環境をいかに維持するかの課題に大きく影響することである。 ・ 本県は東北を代表するものづくり先進県として職業人の育成に力を入れており、工業系の学校は維持しなければならない。 ・ 本県は広大な面積を有することから、本県独自の考え方による地域別の再編計画が必要である。地域ごとに望ましい学校規模の基準を設けるべきである。 ・ 学力の保証が重要視されていることもあり、さらに取組を推進するのであれば、再編計画において1学級の定員にも目を向けて教育環境の整備を進める必要がある。
両 磐 (一関市、平泉町)	1月18日(金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期計画の具体的な検討を進める過程で、募集定員や設置学科等について、県立高校と私立高校との調整が必要となる場面が出てくる可能性もあると思われる。今後、私立高校の状況も考慮に入れながら後期計画の策定を進めてほしい。 ・ 特別な支援を必要とする生徒数が増加していることから、高校においても、今まで以上に特別な支援を必要とする生徒への対応が必要になる。 ・ 後期計画策定に当たっては、少子化の進行や人口減少の状況、県の産業振興の方向性、産業界の動向・ニーズ及び地域の方々の意見を十分に聞きながら、県全体の状況をしっかりと把握した上で検討を進めてほしいと考えている。また、策定した計画は、確実に実行するという姿勢で臨んでいただきたい。 ・ 後期計画の策定においては、中山間地・沿岸部の1学級校のあり方についての検討及び通学支援策の検討が必要になるのではないか。
気 仙 (大船渡市、陸前高田市、住田町)	2月7日(木) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校教育においては、将来、地域医療を支えるような優秀な人材もしっかり育てていくという視点も必要である。 ・ 少子化が進む中においては、高校の統合等を検討することは、やむを得ないと思われるが、統合により公共交通機関での通学が困難になる場合には、通学支援策を検討することも必要である。 ・ 後期計画の策定に当たっては、これからの岩手を支える人材をどのように育てていくかという視点も必要である。 ・ 沿岸部、中山間地のそれぞれの地域の高校には役割があり、地域の将来を担う人材の育成の視点も高校再編を考える上で重要である。 ・ 専門高校と比べ普通高校は学びの特長を出しにくいように思う。学校ごとに学びに特色を持たせるなど、魅力ある学校づくりに取り組む必要がある。
釜石・遠野 (釜石市、遠野市、大槌町)	12月27日(木) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手大学釜石サテライト内に設置されている三陸水産研究センターや釜石・大槌地域産業育成センターと連携した高校のあり方を模索するべきである。 ・ 地域における高校の必要性や重要性を、十分理解した上で後期計画の策定を進めていただきたい。 ・ 後期計画の策定に当たっては、新たな設置基準による少人数学級の導入等についても検討し、全国的に見ても特徴的な岩手型の再編計画を策定してはいかがかと考える。 ・ 小規模校の中には、今後も存続させる必要のある学校が多くあると考えている。子ども達、それを支える地域の方々を地域との連携による教育の充実の中にどのように位置づけるのかについて考える必要がある。夢のある計画を示していただきたい。 ・ 遠野高校では地域課題の発見、解決に向けた取組を行っており、地域と密着した教育を進めていくことが、これからの中山間地・沿岸部の教育のあり方であると考えている。 ・ 県立高校が市町村と連携を強化し、魅力化を図るということが必要である。 ・ 小規模校においてもコース制を取り入れるなどして、様々な産業に対応する学びの機会を設けることが必要であると考えている。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>宮古 (宮古市、山田町、 岩泉町、田野畑村)</p>	<p>1月15日(火) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は生徒確保に向けた自治体間の競争が加速していくと思われる。学校の魅力を高めることで地域外から生徒を集める視点が大切になる。 ・ 宮古管内には、より高いレベルで部活動や勉学に取り組みたいと考え、管外の高校を希望する志の高い生徒もいることから、高校の選択肢を大切にした後期計画が必要である。 ・ 地域の学校を統合せずに残す方策として、都市部の生徒数が多い学校の学級数を減じることも考えられるのではないかとと思われる。 ・ 後期計画の策定に当たっては高校教育と町の教育が力を合わせ、子どもたちの地域産業に対する理解や地元に対する意識・愛着を高めていく仕組みづくりも必要であるという視点で検討をしなければならないと感じている。 ・ 県教委は、各地域の実情に配慮し、10年間の再編計画を策定していると認識している。後期計画の策定に向けた検討に当たっても、地域で学ぶ教育環境をしっかり守るという再編計画の基本的なスタンスを変えない姿勢であることを望む。 ・ 後期計画を策定するに当たり、小規模校については、学級数を維持することで教員数を確保できるよう、30～35人学級を実現させてほしい。 ・ 各市町村においては、人口ビジョンや地域戦略を策定して取り組んでいる。岩手県で生活したいと思われるよう、教育に対する取組が積極的な県であることを打ち出すという視点でも高校再編を進めてほしい。 ・ 宮古地区にとって水産、工業、商業に関する専門学科は必要であり、入学者が定員を下回っても存続させながら、今後の専門教育のあり方について考えてほしい。
<p>久慈 (久慈市、洋野町、 普代村、野田村)</p>	<p>2月4日(月) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒数の減少に伴い学級数を減じていくことについては理解しているところではあるが、これにより配置される教員数も減少することから、今後、生徒の学力をどのように維持させていくのが重要になってくると考えている。 ・ 再編計画においては、望ましい学校規模を原則4～6学級としているが、これだけ人口減が進行している社会情勢の中にあっても小規模校を統合することにより4～6学級を確保する必要があるのか疑問を感じている。 ・ 中山間地では、通学条件等の面で教育を受ける機会の保障が難しいことから、高校再編においては都市部と同様の視点で考えるのではなく、地理的な条件も踏まえた、柔軟な考え方で検討するべきである。 ・ 全国的に人口減少が進行している中、子どもの数のみで学校再編を考えるのではなく、子どもたちにとって今後の学校教育に何が必要であるかという視点で、これまでの考え方に捉われない高校再編を行うべきである。 ・ 生徒にとっては高校の選択肢は多い方がよいので、統合して学校や学科を減らすのではなく、存続させる方向性で検討してほしい。
<p>二戸 (二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>12月26日(水) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口が減少する中であって、学校の統合は避けられないと考えているが、「地域の将来を担う人材育成」を進める地域の取組や特殊事情等も考慮した上で進めてほしい。 ・ 二戸地区全体として「普通高校のあり方」及び「専門高校・総合学科高校のあり方」を考えていかなければならない時期に来ているのではないかと。 ・ 学級減や統合等の議論は、時の流れとしてやむを得ない部分もあるが、地域を担う人材の育成等、様々な観点から高校再編の検討を行っていただきたい。 ・ 学校間連携の仕組みを工夫する等の具体的な施策の実施により、小規模校においてもその魅力が損なわれないよう、県の積極的な関与をお願いしたい。 ・ 後期計画の策定の際には、地域の中で小規模校が存続でき、かつ、生徒が満足した高校生活を送れるような環境・条件づくりについても検討を進めていただきたい。 ・ 子どもたちの進路目標の多様化も踏まえ、二戸地区としてどのような教育体系(学校・学科の配置)が必要なのか、改めて検討する必要がある。 ・ 地元自治体や企業が学校の魅力づくり等を支援する取組が進んでいることから、再編計画を早急に出すのではなく、取組の成果を見守ることも選択肢のひとつではないかと。

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第2回）盛岡ブロック① 会議録

【盛岡ブロック①：滝沢市、雫石町、葛巻町、矢巾町】

○ 日 時：令和元年5月28日（火）10時00分～12時00分

○ 場 所：盛岡市総合福祉センター 4階 講堂

○ 出席者

① 会議構成員

滝沢市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

雫石町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

葛巻町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

矢巾町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般3人、報道2人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

1 平成31年度の入試状況について

【県教委】

- ・ 資料 No. 1-1 「平成31年度の入試状況について」、資料 No. 1-2 「平成31年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等一覧表（全日制）」に基づき説明。

2 第1回地域検討会議における主な意見等

【県教委】

- ・ 資料 No. 2 「第1回地域検討会議における主な意見等」に基づき説明。

3 後期計画策定に向けた意見交換

＜意見交換テーマ＞

- (1) 小規模校のあり方について
- (2) 少人数学級について

(1) 小規模校のあり方についての御意見

【県教委】

- ・ まず、小規模校のあり方について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料 No. 3 「新たな県立高等学校再編計画の概要」、資料 No. 4 「小規模校のあり方について」に基づき説明。

【作山 雫石町教育委員会教育長】

- ・ 後期計画の策定の際は、前期計画の考え方を踏襲することとなるか伺いたい。本日のテーマである小規模校のあり方についての視点として、「地域にとって必要な高校はどのような高校か」というテーマであるが、再編計画に示されている「2年連続して入学者が20名以下とな

った場合、原則、募集停止とし、統合を進める。」という1学級校の統合基準を前提として検討し、学校規模の拡大によるメリットを考えていくのか、県教委の考え方を伺いたい。

【県教委】

- ・ 5頁の資料No. 3「新たな県立高等学校再編計画の概要」で示しているとおり、平成28年3月に策定した10年間の再編計画の基本的な考え方は維持するものとするが、地域検討会議の場でいただいた多くの意見を参考にしながら考えていくこととしている。
- ・ 1学級校の統合基準については、人数ありきで統合を判断するというのではない。多くの県でも20人という統合基準を設けており、また、本県では、1つの学級を複数のグループに編成して指導する取組も取り入れており、1つの学級の生徒数が20人を下回ると数人単位での指導となり得ることから、生徒の社会性の育成など教育の質の保証が難しいと考えるものである。

【作山 雫石町教育委員会教育長】

- ・ 後期計画では、学校規模の拡大による効果、教育の質の保証に踏み込んでいく考えはあるのか。

【県教委】

- ・ 教育の質の保証の観点から、考えていきたい。後期計画の内容については、今後検討することとしており、意見として伺いたい。

【高橋 矢巾町長】

- ・ 5月22日に行われた県教育長の定例記者会見において、高校の後期再編計画にふれており、削減ありき、数字ありきの議論はしない。教育の質の保証と教育の機会の保障は確保したいとの発言を高く評価している。
- ・ 教育は、100年の大計を見据えて、計画の策定を進めるべきであり、小規模校や少人数学級などについての検討においては、数字を示しながら統合基準や統合する地域を誘導するような議論は行うべきではない。必ず落としどころがあると思う。
- ・ 主役である生徒達が高校再編についてどう考えているのか、生徒が進学したい高校が無くなることに対する説明責任を果たすとともに、これまで、生徒を含む双方向の検討を行ってきたか伺いたい。
- ・ 第1回地域検討会議においては、高校の魅力づくりのために、市町村としても積極的に支援していきたいという意見がある。矢巾町には不來方高校があり、町としては、町立の高校のような存在として支援に取り組んでいる。例えば、県立高校を市町村立へ移管したいという意見がある場合、どのような課題があるかについて検討したことはあるのか伺いたい。
- ・ 小規模校でも、地域の郷土芸能の伝承など、小さくても何か光る取組がある。県教委は小規模校の取組をサポートする立場でなければならないと思うが、これまでそのような視点で捉えたことはあるのか伺いたい。

【県教委】

- ・ 生徒本位ということは非常に重要なことと考えており、平成27年度に全体計画を策定する際、生徒の声も必要という意見が出されたことから、県内の中学校3年生を対象にアンケート調査を実施している。今回の後期計画の策定にあたっては、昨年度、県内の全ての国立、公立の中学校3年生を対象にアンケート調査を実施したところである。
- ・ 後期計画の策定に向けては、アンケート調査の結果も踏まえた検討が必要であると考えてい

る。平成 27 年度と平成 30 年度のアンケート結果を比較したところ、普通科への進学や、大きな規模の学校への進学を希望する生徒が増加しており、このようなアンケート結果も踏まえ、今回の地域検討会議において、小規模校のあり方について意見をいただきたいと考えている。

- ・ 北海道の奥尻高校など道立から市町村立へ移管した例があり、県内でも市町村立への移管を検討した例がある。財政面など様々な課題があることから、移管したいという市町村があれば、今後、研究することはあり得ると考える。
- ・ 今回、小規模校の取組事例をいくつか紹介したが、魅力ある取組が生徒の入学に繋がると考えている。事例を参考にしながら高校の魅力づくりを考えていくことは、非常に重要なことと考えている。

【鈴木 葛巻町長】

- ・ 小規模校のあり方や少人数学級の導入という議論であるが、葛巻高校は、1 学級校になった場合も特例校として存続させるから良いということではなく、特例校ではあるが、最低でも 2 学級は維持するという努力を県教委として取り組んでいただきたい。葛巻町としても生徒数の増加に努力を続けており、県教委としてもさらに取り組んでいただきたいと考える。
- ・ 昭和 40 年代、50 年代は、人口増加に対応するため県内各地に新設校を設置してきたが、県央部に新設校が増加したことにより、地方の生徒がより質の高い教育が受けられる地域に移住し、結果として郡部の人口減少につながった経緯がある。当時の高校の設置のあり方が、現在の岩手県の教育に影響を与えてきたと考える。
- ・ 国についても、地方創生を提唱する時代であり、県教委が率先して郡部や農漁村で暮らしたいと考える生徒を全国から受け入れる取組を行うとともに、教育の質の保証は 1 学級では実現が難しいことから、小規模校については、最低でも 2 学級は維持する方針を示していただきたい。
- ・ 再編計画の対象となる高校がある地域では、毎年、高校再編が議論となり、若い世代の住民が将来の不安を抱え、安心して暮らすことができない。市町に最低 1 校は高校を存続させ、高校と自治体や産業が一体となった取組を行うことで高校を存続させていきたいと考えるが、生徒数の減少が続くことから、現在の学校規模で存続させることは不可能であることは理解している。
- ・ 県外生徒の受入れについては、葛巻町で 5 年ほど前から取り組んでおり、全国に先駆けて県外生徒の受入れの先進県となるような再編計画を策定していただきたい。
- ・ 生徒数の減少により学級数を減ずる、2 年連続して 20 人以下となったら統合するという一律的な基準は、本当の意味での再編ではない。これまでに学校を設置してきた経緯等を検証し、県内の郡部の小規模校の存続について考えていただきたい。

【猿子 雫石町長】

- ・ 教育の質の保証を考える上で、現在の再編計画は、数字ありきの議論と感じる。現在 1 学級校である雫石高校は長い歴史があり、地元の伝統文化の継承にも取り組んでいる。
- ・ 県内の私立高校は、生徒数の確保に力を入れ、近年、入学者が増加しているように感じている。私立高校と県立高校が分け隔てなくつながることで、生徒を第一として考えていく必要があるが、県教委は私立高校と意思疎通を図る取組を行っているのか伺いたい。
- ・ 雫石町は秋田県との県境の町であり、交通網が整備されていないことから、雫石高校への通学が不便な生徒が多い。仮に雫石高校が盛岡市内の高校と統合する場合、全ての生徒が高校へ通学できない事態が生じることから、広域的な通学状況を踏まえた検討をしてきたか伺いたい。

【水本 矢巾町商工会会長】

- ・ 高校教育のあり方については、教育行政の中での議論ではなく、教育行政以外にも枠を広げて議論すべきである。岩手県が発展することを前提として高校の存在価値を見出す方策について検討することが必要と考える。
- ・ 安比高原にインターナショナルスクールを設置するという話題があり、期待を寄せている。公立高校は特色が見出せないということはなく、先般、4月に行われた「岩手の高校教育を考えるフォーラム」での小規模校の活性化の取組についての基調講演も参考にしながら、県外生徒の受入れや英才教育の導入を考えても良いのではないか。その前提としては、地元の自治体や地域の住民、企業等が全面的に支援することが必要である。岩手県の恵まれた教育環境の中で価値を見出すことができないか、県や関係者と意見交換を行いたいと考えている。

【阿部 滝沢市商工会会長】

- ・ 首都圏に人口が一極集中している時代であるが、人口の一極集中には限界があり、これからは地方が発展するチャンスと考える。商工会においても、企業に対する指導体制には地域間の格差が生じてきており、今年度から、指導員が各地域の商工会に対し、広域的な補助業務を担っている。
- ・ 学校規模により科目の選択が制限されることは課題であり、配置された教員の中で、複数の学校を兼務することで近隣の小規模校の指導にあたるのが可能であれば、教育の機会の保障は図れると考える。
- ・ 地域から高校がなくなり、生徒がいなくなれば地域の経済が疲弊し、地域の消滅に繋がりがかねない。本日の参加者から、産業界に対する要望があれば伺いたいと考える。

【高橋 矢巾町長】

- ・ 小規模校の存続については、市町村合併が進んだ現在において、広域の課題として考えなければならない。これまでは市町村合併前の各自治体に高校を設置してきたが、これからは高校の統合を考えていかなければならないことから、広域圏を単位として考える必要がある。
- ・ 盛岡農業高校の機能を酪農や農業の盛んな葛巻町に移転するなど全県的な視野での構想を描くことができないものか。また、不来方高校のある矢巾町は岩手医大が移転し、防災・医療に力を入れており、医大への進学に特化した中高一貫校の設置を検討するなど、小規模校の存続とあわせた検討も必要と考える。

【鈴木 葛巻町長】

- ・ 葛巻高校は再編の対象校であり、葛巻町としては、農業高校の設置は、町の歴史や産業を考えれば選択肢の1つと考える。高校の再編ということで考えれば、都市部への高校の集中を避けるため、生徒数が増加した背景により新設された高校を隣接の市町村に移転するなど、地域が望む人材の育成ができる教育環境の整備をお願いしたい。

【佐野峯 滝沢市副市長】

- ・ 現在の滝沢市内の中学生は、1学年の総数が600名程度、小学生が1学年500名程度、未就学児は450人程度、出生数は400人程度となっており、この先さらに減少する見込みである。今後、出生数が急激に増加することは考えられないことから、盛岡市内の高校についても統合せざるを得ない時代を想定し、高校の再編を検討する必要があると考える。

【県教委】

- ・ 県内全体の生徒数が減少しており、学校再編については、県全体の課題として考えていく必

要がある。

- ・ 中学校卒業生については、約8割が公立高校、約2割が私立高校及び高等専門学校へ進学している状況である。私立高校については、それぞれの建学理念に基づいた特色ある学校経営を行っているが、公教育には県内等しく教育を受けられる機会を提供する役割があると考え。私立高校とは公私立高等学校連絡会議を開催し、毎年度の進捗状況も示しながら定期的な意見交換を実施している。
- ・ 広域的な観点からの再編の検討が必要ということについては、再編計画策定時や毎年度の学級編制の際にも、生徒の地区間の異動状況を十分に勘案した上で判断している。
- ・ 県外生徒の受入れについては、平成29年度から平成30年度にかけて有識者による検討を行い、昨年8月に報告書が提出されている。報告書の内容として、県内出身者の学びの機会の確保を優先した上で、一定の条件等を設定した上で県外生徒の受入れ体制を整備することが必要であるという結論に至ったもの。
- ・ 教員の複数校兼務について、全ての高校で取り入れるには学校間の距離等により限界があるが、一部の学校間で既に取り組んでいる。
- ・ 新たな学科の設置について、既存の学科の廃止や生徒の学科選択の希望、卒業後の進路等を踏まえた上で検討が必要と考える。

【久保 葛巻町産業関係者代表】

- ・ 小規模校ほど地域と密着しており、地域とのつながりが強いと考える。人数ありきで存続を判断するのではなく、町や地域との関係性や支援等を勘案した上で判断していただきたい。
- ・ 現在、子供が葛巻高校に在学しており、町の支援による公営塾に通いながら大学への進学を目指している。葛巻町の山村留学制度により町外や県外の生徒と接する機会が増え、地元の生徒には良い刺激になっている。

【佐々木 矢巾町建設業協議会会長】

- ・ 6頁資料No.4「小規模校のあり方について」のように、地域と連携した小規模校の取組として、地域の伝統作物を高校生が復活させ、加工食品を生産する取組が、全国最高位の賞を受賞した例があり、その柔軟な発想と行動力に刺激を受けた。
- ・ 地域と連携した取組は県内各地の高校でも行われており、少子高齢化の進行により地域イベントのボランティアが不足しており、地域の高校生が積極的に地域の行事に参加する取組が必要と考える。
- ・ 生徒数を基準に統合を判断することとしているが、高校は地域にとっては欠かせない存在であり、基準にとられない統合の判断と地域との十分な協議をお願いしたい。

(2) 少人数学級についての御意見

【県教委】

- ・ 次に、少人数学級について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料No.5「少人数学級について」に基づき説明。

【高橋 矢巾町長】

- ・ 1学級の生徒数を40人と35人で比較しているが、働き方改革が話題となる中で、学校現場

の教員が多忙な状況にある。教員の多忙化解消を考えた場合、例えば1学級を40人から30人学級とすれば学級数が増加し、教員数も増加するのではないか。

【県教委】

- ・ 教員の多忙化解消は重要な課題と捉えている。
- ・ 多くの小規模校では、在籍する生徒が定員を大きく下回る状況であることから、少人数学級の導入により学級数が増加することはほぼ無いと考えられ、逆に教員の配置数は減少することとなる。
- ・ 多忙化の解消や質の高い教育の保証という観点から、教員定数の改善は重要なことと考える。

【作山 雫石町教育委員会教育長】

- ・ 宮古高校川井校の廃止が決定した当時、川井校には宮古市内の学校に適応できない生徒が多く在籍しており、小規模校を一律に学級数や生徒数で削減するべきではないと考えた。
- ・ 雫石町では、「雫石高校将来ビジョン」を基本として、雫石高校をなんとか盛り上げようという計画を推進している。入学者の状況に着目すると、地元の中学校からの入学者の割合が減少しており、地域の意見としては、高校の存続には賛成だが、自身の子供については、町外の高校への進学を検討しているといった意見が多数であった。地元中学校からの入学者減少についての解決策としては、雫石町内の中学校の卒業生が約150人のうち、4割の生徒の入学に加え、不足する入学者は近隣の市町から補うことで、2学級を維持することが可能であると考えている。
- ・ 町外の高校への通学利便性の向上や私立高校入学者への就学支援金の支給など、高校の選択肢が広がっているが、教育の機会の保障という観点から、雫石高校の存続は必要と考える。高校存続のためには、地域の高校が必要であるという意識を醸成していくことが重要であり、そのためには多様なニーズに対応する進路実績を上げ、高校の個性を十分発揮することが必要と考える。また、町としても雫石高校を支えるため、財政的な支援や人的支援は全町一体となり一層進めなければならないと考えている。
- ・ 全県的な視野で考えると、生徒数の減少により高校の小規模校化が進み、盛岡市内の高校も例外ではないと考える。今年度、盛岡第四高校の定員を削減したが、生徒数の増加に対応するため新設された高校については、生徒数の減少によりどこかの時点で高校の存続等について検討する必要があると考えており、また、寄宿舎の整備等により教育の機会を保障した上で、高校の再配置についても検討する必要があると考える。

【吉田 葛巻町教育委員会教育長】

- ・ 全国の約6割の都道府県が少人数学級を導入している。岩手県もすべての高校を少人数学級とする必要はないと考えるが、特に生徒数の減少が著しい地域の小規模校に予算措置することで、少人数学級を導入する必要があると考える。
- ・ 葛巻町では、山村留学制度により全国から高校生を地方に受け入れる取組がされており、このような取組については、県と市町村が連携しながら推進する自治体が成功している。県教委としても市町村と連携しながら県外生徒の受入れについて進めていただきたい。

【県教委】

- ・ 少人数学級についての意見交換は、本県の現状を理解していただいた上で少人数教育のあり方も含めた意見を伺いたいということが趣旨である。
- ・ 県単独の予算により少人数学級を導入する方法もあるが、現時点での実現は難しいと考えている。他県の状況についても、配分された教員数の中で調整しながら少人数学級を取り入れて

いると伺っている。

- ・ 県外生徒の受入れについて、県教委と市町村が連携して取り組むべきということは提言として伺い、広域圏を単位とした高校再編についても今後の参考としたい。

【山口 滝沢市PTA連絡協議会（滝沢市立滝沢第二中学校PTA会長）】

- ・ 少人数学級と少人数教育の違いを伺いたい。教員の配置数が減少することで少人数教育が維持し、生徒の多様な進路希望等に応えることは可能であるか伺いたい。

【県教委】

- ・ 生徒数の減少により教員の配置数が減少することから、各校においては人員配置の工夫等により少人数教育を実施しているところであるが、現行の制度の下に少人数学級を導入した場合、教員数の減少により少人数教育の推進に影響が生じることは考えられる。

【山口 滝沢市PTA連絡協議会（滝沢市立滝沢第二中学校PTA会長）】

- ・ 目標を持って専門学科高校に入学したものの、入学後に進路目標を変更した場合、少人数教育においてもそのような生徒への対応が可能であるか伺いたい。

【県教委】

- ・ 各学校においては、変更した進路希望の実現に向けて、可能な範囲で対応しているものと考ええる。

【和田 矢巾町教育委員会教育長】

- ・ 小中学校においては 35 人学級が導入されており、学校現場の活性化やきめ細かな指導につながっている。高校においても特別な支援や配慮を要する生徒が増加しており、そのような生徒たちを社会に送り出すために、教員や支援員等をより多くの学校に配置できるようお願いしたい。

【熊谷 滝沢市教育委員会教育長】

- ・ 平成 28 年 3 月に策定した新たな県立高等学校再編計画は、計画策定の際、検討会議での議論を積み上げ、策定したものと認識している。多くの議論を経て策定した経緯があり、後期計画の策定についても、現在の計画を基本として考えていただきたい。
- ・ 再編計画が、学校や学級数の削減ありきと捉えられるのは残念なことである。再編計画は魅力ある学校づくりのための基本であり、今後策定する後期計画が現実のものとなるよう県教委としても取り組んでいただきたい。

【県教委】

- ・ 生徒数が減少しているという現実がある中で、後期計画を策定に取り組んでいるものであり、本日いただいた意見や今後開催する地域検討会議での議論を踏まえ、計画を策定していきたいと考える。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第2回)【盛岡ブロック①】

出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	滝沢市	佐野峯 茂	滝沢市 副市長	
2		阿部正喜	滝沢市商工会 会長	
3		山口恒司	滝沢市PTA連絡協議会(滝沢市立滝沢第二中学校PTA会長)	
4		熊谷雅英	滝沢市教育委員会 教育長	
5	雫石町	猿子恵久	雫石町長	
6		作山雅宏	雫石町教育委員会 教育長	
7	葛巻町	鈴木重男	葛巻町長	
8		上遠野光一	葛巻町商工会 副会長	代理
9		久保淳	葛巻町産業関係者代表(酪農)	
10		吉田信一	葛巻町教育委員会 教育長	
11	矢巾町	高橋昌造	矢巾町長	
12		水本孝	矢巾町商工会 会長	
13		佐々木和久	矢巾町建設業協議会 会長	
14		鎬洋高	矢巾町立矢巾北中学校PTA 会長	
15		和田修	矢巾町教育委員会 教育長	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
16	県議会議員	軽石義則	岩手県議会議員	
17		千葉伝	岩手県議会委員	
18		臼澤勉	岩手県議会議員	
19		ハクセル美穂子	岩手県議会議員	
20		斉藤信	岩手県議会議員	
21	県立高等学校	片岡順一	盛岡北高等学校長	
22		佐々木和哉	不来方高等学校長	
23		神山秀市	盛岡農業高等学校長	
24		木村基	葛巻高等学校長	
25		小原由紀	雫石高等学校長	
26		馬場香樹	紫波総合高等学校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
27	県教育委員会 事務局等	梅津久仁宏	教育次長	
28		木村克則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
29		軍司悟	学校調整課首席指導主事兼産業・復興教育課長	
30		森田竜平	学校調整課学校調整担当課長	
31		藤澤良志	学校調整課特命参事兼高校改革課長	
32		谷地信治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
33		市丸成彦	学校調整課高校改革担当指導主事	
34		小野寺一浩	学校調整課高校改革担当指導主事	
35		女鹿光介	学校調整課高校改革担当主査	

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第2回）盛岡ブロック② 会議録
【盛岡ブロック②：盛岡市、八幡平市、岩手町、紫波町】

○ 日 時：令和元年5月29日（水）10時00分～12時00分

○ 場 所：盛岡市総合福祉センター 4階 講堂

○ 出席者

① 会議構成員

盛岡市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

八幡平市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

岩手町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

紫波町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般3人、報道2人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

1 平成31年度の入試状況について

【県教委】

- ・ 資料No. 1-1「平成31年度の入試状況について」、資料No. 1-2「平成31年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等一覧表（全日制）」に基づき説明。

2 第1回地域検討会議における主な意見等

【県教委】

- ・ 資料No. 2「第1回地域検討会議における主な意見等」に基づき説明。

3 後期計画策定に向けた意見交換

＜意見交換テーマ＞

- (1) 小規模校のあり方について
(2) 少人数学級について

(1) 小規模校のあり方についての御意見

【県教委】

- ・ まず、小規模校のあり方について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料No. 3「新たな県立高等学校再編計画の概要」、資料No. 4「小規模校のあり方について」に基づき説明。

【田村 八幡平市長】

- ・ 国の動向として、「地方力」を向上させるためには小規模校の活性化が重要であるという認識の高まりがあり、教育の質の保証と教育の機会の保障の両立に向けては、今後、I o Tを活用した取組が重要となる。
- ・ 高校再編については、入学者数のみで統合や学級減の議論となりがちであるが、子どもたち

の部活動や文化活動に対する取組を維持する視点が大切である。例えば、都市周辺部の地域については、地元の中学校を卒業した生徒はすべて地元の高校に入学することとし、ITを活用した教育を推進することで教育の質の保証と教育の機会の保障を両立させ、全国に先駆けた制度を打ち出していく必要がある。

- ・ 地元の高校に入学して高校生活を送った生徒は、高校卒業後に地元を離れる進路を選択したとしても、将来的に地元に戻り、地域に貢献する人材となることが多いと認識している。地元の高校を卒業した生徒は、地方力の維持・発展に欠かすことができない存在である。

【富士 岩手町農業委員会】

- ・ 今後のさらなる少子化の進行に伴う入学者の減少により、学校に配置される教員数も減少せざるを得ないことは残念である。
- ・ 地域としても、地域の学校がなくなることは寂しいことなので、地元出身の若い世代が、将来的に地域に戻ってくるような制度づくりに向けて、国に対する要望をお願いしたい。

【富岡 株式会社富岡鉄工所代表取締役】

- ・ 地元の紫波総合高校については、将来的に学校が存続していけるよう、地域と連携した学校の魅力づくりを推進していくことで、紫波町内の中学校からの入学者をさらに増加させていく必要がある。
- ・ 学校の存続に向けた要望をしているだけでは、生徒たちは保護者の意向等もあり、地区外の学校に進学してしまう現実がある。地域と学校とが連携を図りながら魅力ある学校づくりを進め、そのことにより、地元の学校に進学する生徒を増やすことを優先させるべきと考えるので、県教委としても、そのような仕組づくりに協力をお願いしたい。

【県教委】

- ・ 後期計画の策定に向けては、既存の制度の枠組のみで検討していくものではないと考えている。昨年度、岩泉高校と西和賀高校において試験的にIoTを活用した遠隔授業の導入を行っており、徐々に実用化に向けて取り組んでいるところである。なお、遠隔授業については、評価のあり方等に課題があり、今後さらに研究を進める必要がある。
- ・ 県外生徒の受入れのあり方については、昨年度まで有識者会議を開催して検討を重ねてきたところである。制度化に向けては、県内生徒の入学を保障すること等、一定の条件を定めた上で受入れ体制を整備する方向で提言をいただいております、その方向で検討を進めているところである。
- ・ 子どもたちの進路希望は多様であり、様々な学校から選択できる環境を整備することが大切である。また、多様な進路の実現に向けては、地元の学校の特色を十分に理解した上で選択させることが望ましいと考えている。
- ・ 再編計画では、各学校における教育の充実・発展により魅力化を図ることが示されており、すでに県内各地の学校で取組が進められている。地域との連携が図られた魅力ある学校で学ぶことは、地元への貢献意識の醸成や、地域の発展に貢献する人材の育成につながるものと考えている。

【田村 八幡平市長】

- ・ 県外生徒の受入れについては、制度化に向けて前向きに検討することを期待している。
- ・ 「岩手秋田県境隣接地域県立高等学校入学志願取扱協定」に基づき、八幡平市から秋田県内の高校に入学している生徒がいるが、秋田県内の中学校からも平舘高校に入学するような取組も進めていくべきである。

- ・ 専門高校の学びは地域産業の発展にとって大切であり、レベルの高い充実した専門教育を維持するとともに、専門性を継続した大学への進学者の輩出にも努めてほしい。
- ・ 大学等への進学を希望する生徒の割合が多い普通高校については、ICTを活用した授業を積極的に取り入れることで、より高い教育効果が期待できる。特に都市周辺部の地域に位置する学校については、このような観点を持ちながら教育活動を充実させていくことが必要となる。

【県教委】

- ・ 隣接協定については、岩手県に隣接している青森県、秋田県、宮城県の一部の地域が対象であり、対象となる地域の中学生が相互に県外の高校を受検できる制度であることから、秋田県の生徒についても岩手県の高校を学区内扱いとして受検することができるものである。
- ・ 県外生徒の受入れについては、隣接協定による入学とは別の制度として、全国からの生徒の受入れのあり方等について、引き続き検討していくこととしている。

【八戸 岩手町商工会会長】

- ・ 県外生徒の受入れについては、制度化に向けたハードルが高いと認識しているが、自治体として地域の学校を支援していきたいと考えていることから、早急に制度化に向けた検討を進めていただきたい。

【小澤 新岩手農業協同組合常務理事】

- ・ 全国的な少子化の中で、小規模校が増えている状況はやむを得ないことと捉えているが、地方が衰退しないためにも地元の学校は残していくべきである。
- ・ 定員割れが生じている学校については、その学校及び学科に魅力がないのか、又は、単に少子化の影響により生徒数が少ないのかを見極める必要がある。
- ・ 地元の小中学校の児童・生徒数を見れば、将来的な地元の高校への入学者数が予想できることから、入学者の確保に向けて地域と行政とが話し合いを持ち、魅力ある学校の創造に向けて取り組んでいくべきである。
- ・ 再編計画においては、入学者数が2年連続して20人以下であれば統合する基準が示してあるが、入学者数が20人以下となった学校については、ITを活用した教育や、盛岡市内の高校でのスクーリングの導入を図るなど、教育の質の確保に向けて幅広い考えで検討を行うべきである。
- ・ 特色ある学科を設置して全国から生徒を募集するなど、既成の枠組みにとらわれない教育を推進するべきである。また、小中学校や特別支援学校の教育を取り込んだ総合的な学校の設置についても検討するべきである。

【熊谷 紫波町長】

- ・ 再編計画では、入学者数が2年連続して20人以下となった場合には統合基準に該当することとなっているが、このような基準を定めておくことも必要ではないか。入学者がその基準を下回らないための努力が必要であり、子どもたちのために魅力ある学校にしていかなければならない。
- ・ 総合学科高校については、系列の学習内容について見直しを図り、学校自体の価値を見直す時期にきているのではないか。

【吉田 岩手町副町長】

- ・ 再編計画の基本的な考え方として、各市町村における地方創生の視点が盛り込まれているが、県教委として担当知事部局との連携が図られているのか伺いたい。

【県教委】

- ・ 再編計画には、前期再編プログラムにおいて統合を判断する場合の考え方について盛り込んでいる。平成 27 年度に全体計画を公表した際、地域の地方創生に向けた取組の推移等も考慮して統合を判断するべきという要望を踏まえて策定した計画であり、現在、前期プログラムで計画していた 3 地区の統合のうち、2 地区については地域の取組状況等を勘案して延期しているところである。
- ・ 新しい学科の設置については、既存の学科を廃止して新たに設置することとなり、生徒のニーズや卒業後の進路状況等についても考慮した上で検討していくこととなる。
- ・ 学校の魅力づくりについては、各地域の支援をいただきながら推進しているところであり、今後においても力を入れて取り組んでいくこととしている。

【平澤 岩手町教育委員会教育長】

- ・ 再編計画においては、4 から 6 学級校を適正規模としているが、県内には 7 学級以上の大規模校も設置されていることから、後期計画の策定に向けては、県全体の学校配置の視点から検討していくべきである。
- ・ 教育の質については、学校規模により保証されるという考え方ではなく、教員の授業力を向上させることにより保証していく観点を重視するべきである。
- ・ 先般、沼宮内高校の授業参観に出席する機会があり、すべての学年の授業において大きな変化を感じることができた。小グループで話し合う形態を取り入れた授業展開であることから、授業に臨む生徒たちの態度は主体的かつ対話的であり、活気に満ちている様子を伺うことができた。
- ・ 生徒の主体性を重んじた授業については小中学校において実践されているところであるが、高校においてもそのような授業が継続されている状況を拝見し、先生方の指導観が良い方向に変化していることを感じる事ができた。
- ・ テストの点数が良い生徒や校内のリーダー的存在の生徒については町外の高校に進学する傾向にあるが、地元の高校に入学し、地元の小中学校で受けてきた授業の経験を生かしながら高校生活を送ることができる教育環境は大切であると考えている。
- ・ 全国的に特色ある学校づくりが求められているが、学校の特色については、生徒の力を引き出す教員の指導力と生徒自身の努力により創造されるものがある。単に地域にホッケーや伝統芸能があることがよいのではなく、それらに取り組む姿勢が重要であると考えている。

(2) 少人数学級についての御意見

【県教委】

- ・ 次に、少人数学級について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料 No. 4 「少人数学級について」に基づき説明。

【千葉 盛岡市教育委員会教育長】

- ・ 本県の現状として、欠員がある学校が多いことから実質的な少人数学級の状況であり、この状況において少人数学級の制度を導入することは教員定数のみが削減されることとなり、メリットがないという理解でよろしいか確認したい。

- 資料No.5「少人数学級について」では、少人数教育の取組についての例が記載されている。習熟度別学習等については、学校の状況によりグループ編成の人数が異なるものと認識しているが、極少数で編成されたグループで授業を行う場合、その様子についての例を提示していただきたい。

【県教委】

- 少人数教育については、習熟度別の学習を目的として学級を編成するなど、各学校の実情に応じて工夫した取組を行っている。また、普通高校においても、選択科目を設定することで生徒の興味関心に応じた履修を可能としており、特に総合学科高校は科目選択の幅が広いという特長がある。

【星 八幡平市教育委員会教育長】

- 県教委は、国に対して教員定数の制度改善について要望しているとのことであるが、どのように改善することが本県の高校教育に効果があると考えているのか伺いたい。

【県教委】

- 国に対しては、生徒に対する手厚い指導が可能となるよう、教員定数の増加等について要望しており、今後についても継続して要望することとしている。

【侘美 紫波町教育委員会教育長】

- 小中学校の児童・生徒数の減少に対応した新しい仕組づくりに向けて一定の結論を出したとしても、世の中の動きは速く、すでに次の時代を迎えていることが多いことから、組織のリーダーは常に一步先の時代を見越した判断が必要となる。
- 学級数等のハード面のみの議論ではなく、子どもたちの将来に必要なソフト面についても同時に議論を進めることが大切である。
- 国の動向としては、Society5.0の時代をどのように生きていくか、また、学校の魅力化という抽象的な課題がある中で、普通科の学びのあり方等についても関心が高まっている。
- 総合学科高校のハード面をどのように整備しながら学びの魅力を高めていくべきかについては、現状を維持する考え方ではなく、将来を見据えた視点が必要である。町内の小中学校の再編においてもそのような視点から取り組んでいるところである。
- 高校教育にICTを導入していく方針については支持するものであるが、本格的にICTが導入される時代になったとしても、教育の基本は教師が生徒と向き合う「face to face」である。

【高村 岩手町PTA連合会副会長】

- 保護者等からは、地元の高校は残すべきとの意見を聞いており、単に欠員が多い学校を統合していく方針であれば地域の理解を得ることは難しいと捉えている。
- 少子化の進行により高校の生徒数が減少することとなるが、小中学校においても生徒数の減少に伴い教員数が削減されるという説明を受けたことがある。高校の教員数の確保については、県教委として国に要望しているとのことであるが、高校がおかれている状況を中学校の保護者が詳細に知ることができるよう、中学校側への情報提供をお願いしたい。

【星 八幡平市教育委員会教育長】

- 高校教育においてどのような生徒を育成していくかについては、県の方針である「岩手だからこそできる教育、やるべき教育」の推進が大切になるのではないかと。

- ・ 今後、学校教育においてはアクティブ・ラーニングの視点が重要視されてくる。また、特別な支援を必要とする生徒も入学している実態があるので、教員数を確保した上で、充実した教育活動を展開できる学校づくりが必要となる。
- ・ 平舘高校の生徒たちが取り組んでいる「紫根染め」の学習については、長年にわたり地域の高齢者の方々に喜ばれている。このような取組は、地元をよく知る生徒、地元に誇りを持つ生徒を育成する下地となっており、地域の企業にとっても魅力ある人材となることから、今後も大切にしていきたい。

【森川 紫波町PTA連合会副会長】

- ・ 本県の現状において、高校教育に少人数学級の制度を導入することで教員数が減少し、よりきめ細かな指導が難しくなるという説明であったが、仮に教員数が減少するとしても、ICT活用等に教育予算を集中させることで教育の質を維持することができるのではないかと。
- ・ 生徒自身の進路実現に向けて、しっかりと学習に取り組みたいと考える生徒は多いので、子どもたちのニーズに応えることができる教育環境を維持してほしい。学区の見直しや中高一貫教育校の設置など、制約を外すことも検討するべきである。

【中村 盛岡市PTA連合会事務局長】

- ・ 教育は基礎基本が大切であり、教育の改善に向けては丁寧に取り組むことが重要である。また、授業の充実についても大切であり、特に小規模校においては、きめ細かな指導により、生徒が意欲的に勉強に励みながら進路を実現させる教育環境とする必要がある。
- ・ キャリア教育については、学校教育の中で多様な選択肢を示していくことが大切である。

【県教委】

- ・ 後期計画の策定に向けては、それぞれの地域の学校が授業の質を向上させる視点も大切なことであると認識している。
- ・ 今年度より、確かな学力の育成や豊かな心の育成等を重点とした「岩手県教育振興計画」を策定し、岩手だからこそできる教育、やるべき教育等を視点とした計画の推進に向けて取り組むこととしている。後期計画の策定に向けては、岩手県教育振興計画の内容についても前提とした検討を進めることとしている。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第2回)【盛岡ブロック②】
出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	盛岡市	嵯峨忠志	盛岡市農業委員会 会長職務代理者	
2		中村庄蔵	盛岡市PTA連合会 事務局長	代理
3		千葉仁一	盛岡市教育委員会 教育長	
4	八幡平市	田村正彦	八幡平市長	
5		遠藤収一	八幡平市商工会 事務局長	
6		小澤和弘	新岩手農業協同組合 常務理事	
7		星俊也	八幡平市教育委員会 教育長	
8	岩手町	吉田和彦	岩手町 副町長	代理
9		八戸保彦	岩手町商工会 会長	
10		福士好子	岩手町農業委員会	
11		高村博喜	岩手町PTA連合会 副会長(岩手町立立川口中学校PTA会長)	
12		平澤勝郎	岩手町教育委員会 教育長	
13	紫波町	熊谷泉	紫波町長	
14		富岡靖博	(株)富岡鉄工所 代表取締役	
15		森川高博	紫波町PTA連合会 副会長(紫波町立紫波第一中学校PTA会長)	
16		侘美淳	紫波町教育委員会 教育長	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
17	県議会議員	高橋但馬	岩手県議会議員	
18		千葉伝	岩手県議会委員	
19		工藤勝博	岩手県議会議員	
20		田村勝則	岩手県議会議員	
21		小西和子	岩手県議会議員	
22	県立高等学校	佐藤有	盛岡第一高等学校長	
23		菅原尚志	盛岡第二高等学校長	
24		中島新	盛岡第三高等学校長	
25		五日市健	盛岡第四高等学校長	
26		松尾和彦	盛岡南高等学校長	
27		荒木田光孝	杜陵高等学校長	
28		南館秀昭	盛岡工業高等学校長	
29		猿川泰司	盛岡商業高等学校長	
30		千葉雅彦	沼宮内高等学校長	
31		谷藤節雄	平館高等学校長	
32		小原由紀	雫石高等学校長	
33		馬場香樹	紫波総合高等学校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
34	県教育委員会 事務局等	佐藤一男	教育次長兼教育企画室長	
35		木村克則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
36		森田竜平	学校調整課学校調整担当課長	
37		藤澤良志	学校調整課特命参事兼高校改革課長	
38		谷地信治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
39		市丸成彦	学校調整課高校改革担当指導主事	
40		小野寺一浩	学校調整課高校改革担当指導主事	
41		女鹿光介	学校調整課高校改革担当主査	